



RP-E10 シリーズ
プリンタードライバー
取扱説明書

U00127036110

セイコーインスツル株式会社

U00127036100	2012年	5月
U00127036101	2012年	7月
U00127036102	2012年	11月
U00127036103	2013年	2月
U00127036104	2013年	12月
U00127036105	2014年	6月
U00127036106	2015年	3月
U00127036107	2016年	3月
U00127036108	2019年	8月
U00127036109	2019年	10月
U00127036110	2020年	8月

©セイコーインスツル株式会社 2012-2020

無断転載を禁じます。

Microsoft®及び Windows®は米国 Microsoft Corporation の米国、日本及びその他の国における登録商標です。

Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

本書の内容は、断りなく変更することがあります。

本書及び本書に記載された製品の利用によって発生した
損害及びその回復に要する費用に対し、当社は一切の責任を負いかねます。

この取扱説明書を第三者に無断で頒布することを禁じます。

はじめに

本書はセイコーインスツル株式会社の RP-E10 シリーズ向けプリンタードライバー(以降:プリンタードライバー)について説明します。

本書は原則、下記条件に基づき記載します。

- Windows 7の画面及び表示構成
- マウス及びキーボードによる操作方法

記号について

本書で使用する記号について以下に記載します。

注意

- ◆ 注意事項や制限事項を記載しています。

参考

- 補足説明や関連事項を記載しています。

対象プリンターについて

プリンタードライバーでサポートするプリンター(本体)を以下に記載します。

- RP-E10-K3FJ1、RP-E10-K3FJ2
- RP-E10-W3FJ1、RP-E10-W3FJ2
- RP-E11-K3FJ1、RP-E11-K3FJ2
- RP-E11-W3FJ1、RP-E11-W3FJ2

オペレーティングシステムの略称について

本書で使用するオペレーティングシステムの略称について以下に記載します。
個別で説明する必要がある場合は、略称の後ろに記載した括弧書きの内容で説明します。

- Microsoft® Windows®の全般 ⇒ Windows
- Microsoft® Windows® 10 ⇒ Windows 10
- Microsoft® Windows Server® 2019 ⇒ Windows 10 (Windows Server 2019)
- Microsoft® Windows Server® 2016 ⇒ Windows 10 (Windows Server 2016)
- Microsoft® Windows® 8.1 ⇒ Windows 8.1
- Microsoft® Windows Server® 2012 ⇒ Windows Server 2012
- Microsoft® Windows® 7 ⇒ Windows 7
- Microsoft® Windows® Embedded POSReady 7 ⇒ Windows 7 (Windows POSReady 7)

用語について

本書で使用する用語について以下に記載します。

用語	内容
ツール	プリンタードライバーから起動できる各種ツール群
プリンター名	プリンターフォルダーに表示され、ユーザーが変更できるフレンドリ名
ドライバー名	プリンタードライバーを識別する固有のモデル名
通信ライブラリ	プリンタードライバーに付属する、直接プリンターと通信して制御することを目的とするアプリケーション開発向けダイナミックリンクライブラリ(DLL)
技術説明書	プリンター本体の技術説明書
プリンターコマンド	技術説明書に記載されているプリンターを制御するための命令
テスト印刷コマンド	プリンタードライバーにおいてテスト印刷を行う命令 ツールパネルの[テスト印刷]の[コマンドリスト(L)]に入力するコマンド群
メモリスイッチ	技術説明書に記載されている[機能設定]の機能
NVイメージ	プリンターのNVメモリ(不揮発性メモリ)に登録されたイメージデータ
IPD*1 フォント	プリンタードライバー独自の以下のフォントの総称 <ul style="list-style-type: none"> ・ デバイスフォント ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
特殊フォント	IPDフォントで、プリンターコマンドの出力のために使用する以下のフォントの総称 <ul style="list-style-type: none"> ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
ヘッド分割指定	サーマルヘッドを複数のブロックに分割して印刷する分割設定
メンテナンスカウンター	プリンターコマンドで取得できるメンテナンスカウンターの値
プリンターステータス	プリンターコマンド「自動ステータス送信の有効・無効」で取得できる応答 応答内容については『5.2.3 ステータスの一覧』を参照してください。

*1: Integrated Printer Driver (以降IPD)

表記について

本書では、オペレーティングシステムに依存する下記の内容を、共通名称として定義します。

プリンターフォルダー

本書の説明で使用する「プリンターフォルダー」とは、下記の操作により表示されるフォルダーを指します。

- Windows 10、Windows 8.1及びWindows Server 2012の場合

[コントロールパネル]⇒[ハードウェアとサウンド]⇒[デバイスとプリンター]の順に選択し、表示される[デバイスとプリンター]フォルダー

- Windows 7の場合

[スタート]⇒[デバイスとプリンター]の順に選択し、表示される[デバイスとプリンター]フォルダー

プリントサーバーのプロパティ

本書の説明で使用する「プリント サーバーのプロパティ」とは、下記の操作により表示されるプロパティを指します。

[プリンターフォルダー]内の任意のプリンターアイコンをクリック⇒[プリンターフォルダー]上部のツールバーに表示された[プリント サーバー プロパティ]を選択し、表示される[プリント サーバーのプロパティ]

ルートフォルダー

本書の説明で使用する「ルートフォルダー」とは、下記のフォルダーを指します。

<Windows がインストールされているドライブ>:\Users\<ユーザー名>\Documents\
<プリンター名(SII RP-E10 など)>\

免責

本ソフトウェアの開発ではトラブルが発生しないよう十分留意していますが、万一、本製品によりお客様に直接的、間接的または波及効果による損害を及ぼした場合でも、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

1章	概要	1-1
1.1	はじめに	1-1
1.2	動作環境	1-1
1.2.1	オペレーティングシステム	1-1
1.2.2	コンピューター	1-2
1.2.3	インターフェイス	1-2
1.3	メモリスイッチの利用条件	1-3
1.4	制限事項	1-4
2章	インストール	2-1
2.1	概要	2-1
2.2	新規インストール方法	2-2
2.2.1	インストール共通手順	2-2
2.2.2	USB接続でのインストール	2-3
2.2.3	シリアル接続またはBluetooth接続でのインストール	2-5
2.2.4	TCP/IP接続でのインストール	2-6
2.2.5	共有プリンターのインストール	2-7
3章	印刷設定	3-1
3.1	概要	3-1
3.2	レイアウト	3-2
3.2.1	レイアウトの設定	3-2
3.3	用紙・品質	3-3
3.3.1	用紙/品質の設定	3-3
3.4	書式設定	3-4
3.4.1	書式の設定	3-4
3.4.2	[設定ビュー]のマーク一覧	3-5
3.4.3	[設定リスト]のカテゴリ	3-6
3.4.4	プリセットの利用	3-6
3.4.5	基本設定	3-10
3.4.6	用紙カット/マーク紙の設定	3-12
3.4.7	オプションの設定	3-13
3.4.8	バイナリエディターの使用方法	3-15
3.5	フォント	3-16
3.5.1	フォントの設定	3-17
3.5.2	[設定ビュー]のマーク一覧	3-17
3.5.3	[設定リスト]のカテゴリ	3-18
3.5.4	デバイスフォントの設定	3-18
3.5.5	バーコードフォントの設定	3-20
3.5.6	2次元バーコードフォントの設定	3-22
3.5.7	コントロールAフォントの設定	3-24
3.6	ウォーターマーク	3-25
3.6.1	ウォーターマーク	3-25
3.6.2	[設定ビュー]のマーク一覧	3-26
3.6.3	[設定リスト]のカテゴリ	3-26

3.6.4	ウォーターマークの設定	3-27
3.6.5	ウォーターマークの利用	3-28
3.7	詳細設定	3-29
3.7.1	詳細オプションの設定	3-29

4章 プロパティ 4-1

4.1	概要	4-1
4.2	全般	4-2
4.2.1	全般の設定	4-2
4.3	共有	4-3
4.3.1	共有の設定	4-3
4.4	ポート	4-4
4.4.1	ポートの設定	4-4
4.5	ツール	4-5

5章 ツール 5-1

5.1	概要	5-1
5.1.1	[ツール]の表示	5-2
5.2	プリンター情報	5-3
5.2.1	プリンター情報の表示	5-3
5.2.2	プリンターステータスの表示	5-4
5.2.3	ステータスの一覧	5-5
5.2.4	ステータス履歴の保存	5-6
5.2.5	ハードウェアの表示	5-6
5.2.6	メンテナンスカウンターの表示	5-7
5.3	メモリスイッチ	5-8
5.3.1	メモリスイッチの設定	5-8
5.3.2	メモリスイッチ設定のプリンター登録	5-9
5.3.3	メモリスイッチ設定内容の保存	5-9
5.4	ログ	5-10
5.4.1	ログ出力の設定	5-10
5.4.2	ログ出力の設定の変更	5-12
5.4.3	ログファイルの内容	5-12
5.5	テスト印刷	5-13
5.5.1	テスト印刷の設定	5-13
5.5.2	テスト印刷の実行	5-16
5.5.3	テスト印刷ファイルの保存	5-17
5.6	NVイメージ	5-18
5.6.1	NVイメージの設定	5-18
5.6.2	イメージ登録の設定	5-19
5.6.3	イメージ編集の設定	5-21
5.6.4	NVイメージの登録	5-22
5.6.5	イメージデータの編集	5-23
5.6.6	イメージデータの設定と画像の保存	5-23
5.7	コードページ	5-24
5.7.1	コードページの設定	5-24
5.7.2	コードページ登録の設定	5-26

5.7.3	[キャラクタービュー]によるフォントデータの編集	5-28
5.7.4	コードページの登録	5-29
5.7.5	フォントデータの編集	5-30
5.7.6	フォントデータの設定と画像の保存	5-30
5.8	その他	5-31
5.8.1	その他の設定	5-31
5.8.2	設定のインポート	5-32
5.8.3	設定のエクスポート	5-32

6章 用紙設定 6-1

6.1	概要	6-1
6.2	用紙サイズ	6-3
6.3	余白	6-3
6.4	カスタム用紙の登録方法	6-5

7章 フォント 7-1

7.1	概要	7-1
7.2	デバイスフォント	7-2
7.2.1	デバイスフォントの種類を選択	7-3
7.2.2	デバイスフォントの印刷	7-3
7.3	バーコードフォント	7-4
7.3.1	バーコードフォントの種類を選択	7-4
7.3.2	バーコードフォントの印刷	7-5
7.4	2次元バーコードフォント	7-7
7.4.1	2次元バーコードフォントの種類を選択	7-7
7.4.2	2次元バーコードフォントの印刷	7-7
7.5	コントロールフォント	7-8
7.5.1	コントロールフォントの種類を選択	7-8
7.5.2	コントロールフォントの利用	7-8
7.6	コントロールAフォント	7-10
7.6.1	コントロールAフォントの種類を選択	7-10
7.6.2	コントロールAフォントの利用	7-10

1章 概要

1.1 はじめに

本章ではプリンタードライバーの概要について説明します。

1.2 動作環境

プリンタードライバーの動作環境について説明します。

1.2.1 オペレーティングシステム

プリンタードライバーは以下のオペレーティングシステムをサポートします。
カッコ内はサポートするアーキテクチャを示します。

- Windows 10 (32ビット及び64ビット)
- Windows Server 2019 (64ビット)
- Windows Server 2016 (64ビット)
- Windows 8.1 (32ビット及び64ビット)
- Windows Server 2012 (64ビット)
- Windows POSReady 7 (32ビット及び64ビット)

注意

- ◆ Modern UIはサポートしていません。

1.2.2 コンピューター

プリンタードライバーは以下のコンピューターをサポートします。

- PC/AT互換機

1.2.3 インターフェイス

プリンタードライバーは以下のインターフェイスをサポートします。

- シリアル(規格:RS-232C)
- USB(規格:フルスピード)
- TCP/IP(プロトコル:Raw)
- Bluetooth(プロファイル:SPP)

注意

◆ Bluetooth接続の場合:

- 動作条件は下記の通りです。
 - ・対象のプリンターが他のコンピューターとBluetooth接続されていないこと
 - ・マイクロソフト社のシステム標準ドライバーを利用していること
 - ・Bluetooth接続でのインストール時に生成される仮想シリアルポートを経由して接続できること
 - ・Windows 7の場合、追加されたBluetoothデバイスの“Wireless iAP”のサービスが無効となっていること(プロパティの“Wireless iAP”のチェックボックスがオフになっていること)
- Bluetooth接続で、プリンタードライバーまたは通信ライブラリを使用していない場合は、プリンター情報構造体(PRINTER_INFO)のステータス情報は反映されません。
- Windows Server 2019、2016及び2012はBluetooth通信をサポートしていません。

◆ TCP/IP接続の場合:

- Rawプロトコルのみサポート(LPRの指定は無視)します。(ただし、双方向サポートが無効の場合を除く)
- 9100番、及び26100番のソケットポートを使用します。ファイアーウォールを導入する場合、これらのポートの接続を許可する設定で利用してください。

◆ シリアル通信設定の場合:

- シリアル通信設定のビット長は8ビットで利用してください。
- ポートの設定をプリンター側の通信設定に合わせてください。設定方法は『4.4 ポート』を参照してください。

参考

- 動作確認済みのBluetoothデバイスについては、弊社までお問い合わせください。

1.3 メモリスイッチの利用条件

メモリスイッチを以下に設定してください。

メモリスイッチはツールにより変更できます。詳細は『5.3 メモリスイッチ』を参照してください。

MS	項目名	設定条件
MS1 - 3	マークモード選択 (Mark Mode)	0 : 無効(Disable) / 1 : 有効(Enable) ^{※1}
MS5 - 1	自動ステータス応答機能選択 (Auto Status Back)	0 : 有効(Enable) / 1 : 無効(Disable) ^{※2}
MS5 - 2	イニシャライズ完了応答選択 (Init. Response)	0 : 有効(Enable) ^{※2, ※3}
MS40 - 5	フロー制御選択 (Flow Control)	1 : ハードウェア制御(Hardware Control) ^{※4}
MS40 - 6	プリンタビジー制御選択 (Printer Busy)	1 : RTS制御(RTS Control) ^{※4}
MS40 - 7	ホストビジー制御選択 (Host Busy)	0 : CTS及びDSR制御(CTS)
MS40 - 8	ブレーク信号選択 (Break)	1 : RxD(RxD) ^{※4}

※1: マーク紙の頭出しを行う場合は、本設定を「有効」にしてください。

マーク紙の頭出しを行わない場合は、本設定を「無効」にしてください。

※2: 通常は本設定を「有効」で利用してください。ただし『4.4 ポート』の[双方向サポートを有効にする]を「オフ」に選択した場合、本設定を「無効」に設定してください。

※3: 通信ライブラリで[イニシャライズ完了応答]を取得する場合のみ必要です。

※4: シリアル接続またはBluetooth接続を利用する場合、本設定条件でご利用ください。

注意

- ◆ 上記以外の設定にした場合は、プリンタードライバーが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1.4 制限事項

プリンタードライバーには、以下の制限事項があります。

- Windows標準機能のスリープモード、休止モードでの印字化け等の異常動作については、保証対象外です。
- 専用のプリントプロセッサ (SII Print Processor) が無効になる設定 (FILE出力含む) の場合、すべての縮小機能が無効になります。
- プリンターコマンド「周辺機器の選択」において、プリンターを無効に選択した場合、プリンタードライバーの機能はすべて利用できません。
- TCP/IP接続利用時に、複数のコンピューターで同一のIPアドレスを指定してインストールした場合、ツール及び通信ライブラリを複数のコンピューターで同時利用することはできません。また、印刷をキャンセルした場合は、正常に印刷されない場合があります。
- 印刷中断時にプリンターと未接続状態、またはプリンターがデータを受け付けられない状態になっていた場合、プリンターのリセット処理が正常に実施されず、印字化け等が発生する可能性があります。

2章 インストール

2.1 概要

本章ではプリンタードライバーのインストールについて説明します。

インストール方法には以下の種類があります。

- [プリンターフォルダー]の[プリンターの追加]からのインストール
- 専用インストーラーからのインストール

本章では専用インストーラーからのインストール手順のみ説明します。

注意

- ◆ インストール作業にはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ インストール中に[Windowsロゴテスト]についての警告が表示される場合がありますが、そのままインストールを続行してください。
- ◆ WOW64環境で通信ライブラリを利用する場合、及び通信ライブラリの.NET APIを利用する場合は専用インストーラーからインストールを行ってください。

参考

- プリンタードライバーが不要となった場合は、コントロールパネルの[プログラムと機能]から[SII RP-E10 Printer Driver]を選択し、アンインストールを行ってください。

2.2 新規インストール方法

新規インストール方法について説明します。

注意

- ◆ 同一の通信ポートに複数のドライバーをインストールしないでください。

2.2.1 インストール共通手順

以下に各接続で共通するインストール開始手順について説明します。

1. [インストーラー起動]画面が表示されますので[次へ(N) >]ボタンをクリックします。

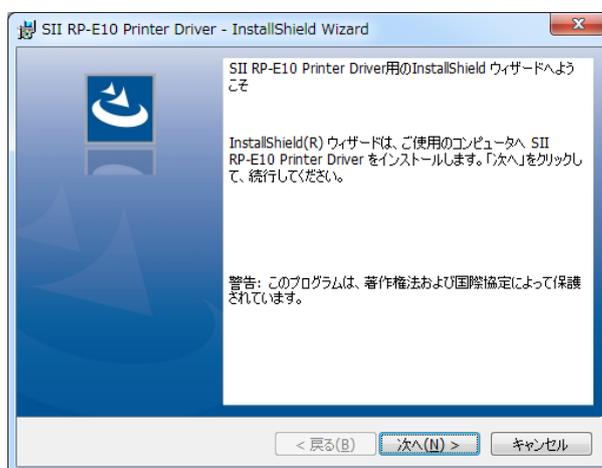


図 2-1 [インストーラー起動]画面

2. [ソフトウェア使用許諾契約書]が表示されますので、内容を確認して「使用許諾契約の条項に同意します(A)」を選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックします。
3. [インストール確認]画面が表示されますので、[インストール(I)]ボタンをクリックします。

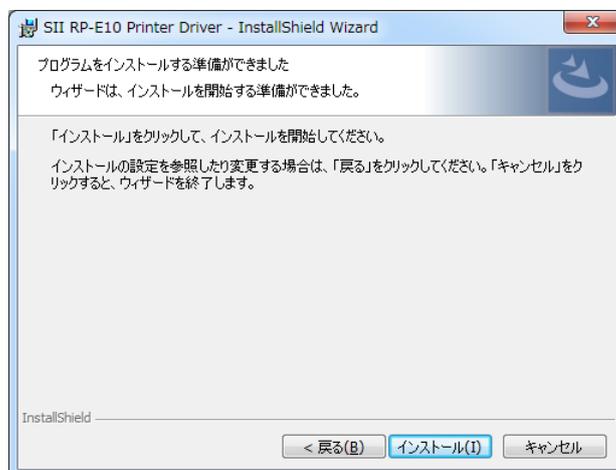


図 2-2 [インストール確認]画面

以降の手順についてはプリンターとの接続方式により異なります。接続方式が USB 接続の場合『2.2.2 USB 接続でのインストール』、シリアル接続または Bluetooth 接続の場合『2.2.3 シリアル接続または Bluetooth 接続でのインストール』、TCP/IP 接続の場合『2.2.4 TCP/IP 接続でのインストール』、共有プリンターを利用する場合は『2.2.5 共有プリンターのインストール』へ進んでください。

2.2.2 USB接続でのインストール

以下に USB 接続でのインストール手順について説明します。

注意

- ◆ USB接続の場合、本書の指示があるまではプリンターの電源は切っておいてください。

4. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「プラグアンドプレイインストール」を選択し、[Install]ボタンをクリックします。

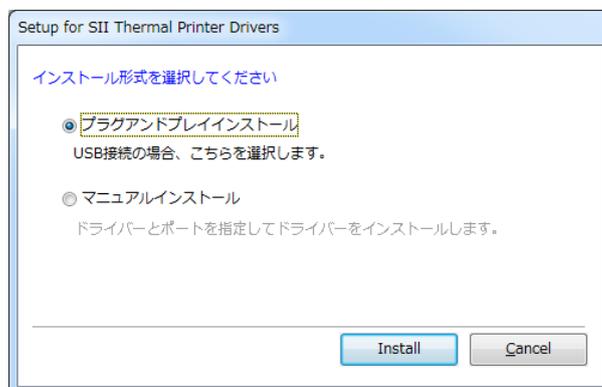


図 2-3 [インストール形式の選択]画面 (USB接続)

5. [完了]画面が表示されたら、プリンターとコンピューターをUSBケーブルで接続し、プリンターの電源を入れてください。

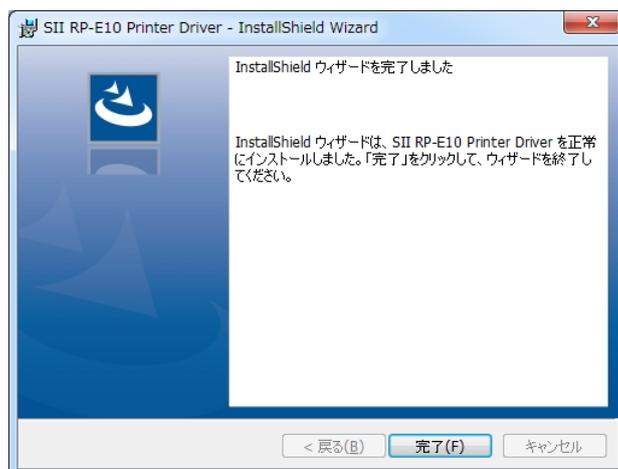


図 2-4[完了]画面 (USB接続)

6. プリンターがコンピューターに認識されると、プラグアンドプレイによりプリンタードライバーが自動的にインストールされます。

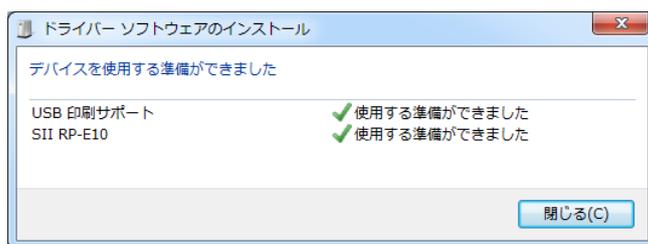


図 2-5 [ドライバーソフトウェアのインストール]画面

7. 「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」を選択し、[次へ(N)>]ボタンをクリックするとプリンタードライバーがインストールされます。

注意

- ◆ プリンタードライバーのインストール完了後に取り外したUSBケーブルを再度接続する場合には、インストールした時と同一のUSBポートに接続してください。USBポートの位置を変更すると、コンピューター側で別のプリンターを接続したと認識し、再びプリンタードライバーのインストール要求が発生します。

2.2.3 シリアル接続または Bluetooth 接続でのインストール

注意

- ◆ Bluetooth接続を使用する場合は事前にペアリングを実施の上、生成された仮想シリアルポートへの割り当てを行ってください。
- ◆ Bluetooth接続を使用する場合は複数台のホストから同時に利用することは出来ません。

以下にシリアル接続または Bluetooth 接続でのインストール手順について説明します。

4. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「マニュアルインストール」を選択し、インストールするドライバーと接続するポートを選択して[Install]ボタンをクリックし、インストールを開始します。

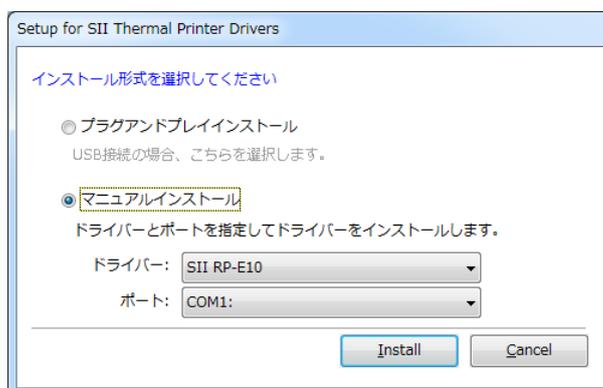


図 2-6 [インストール形式の選択]画面(シリアル接続またはBluetooth接続)

5. インストールが終了すると、[完了]画面が表示されます。

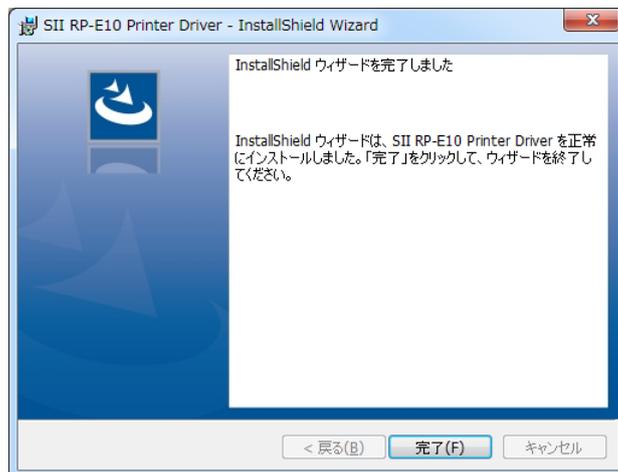


図 2-7 [完了]画面(シリアル接続またはBluetooth接続)

2.2.4 TCP/IP接続でのインストール

以下にTCP/IP 接続でのインストール手順について説明します。

4. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「マニュアルインストール」を選択し、「新しいポートの追加...」を選択します。

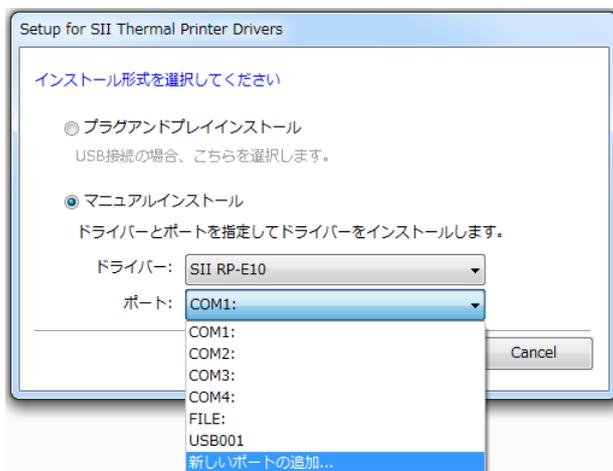


図 2-8 [インストール形式の選択]画面 (TCP/IP接続)

5. [新しいポートの作成]画面が表示されますので、「TCP/IPポート」を選択し、[IPアドレス]、[ポート名]、[ポート番号]を設定して[OK]ボタンをクリックすると、[インストール形式の選択]画面のポートリストにポートが追加されます。

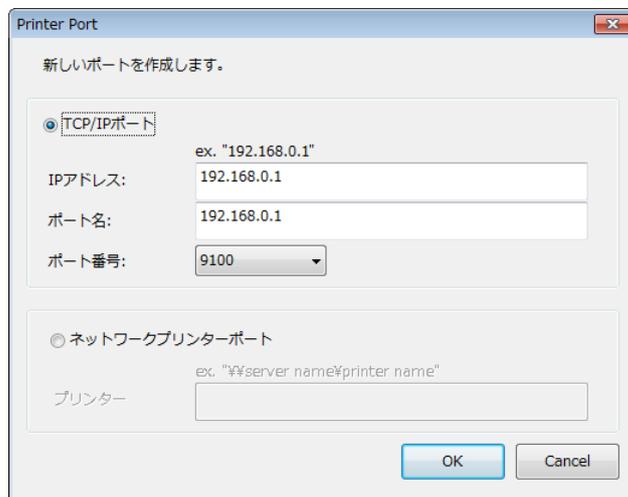


図 2-9 [新しいポートの作成]画面 (TCP/IP接続)

6. [インストール形式の選択]画面に戻りますので、インストールするドライバーと接続するポートを選択し、[Install]ボタンをクリックしてインストールを開始します。

7. インストールが終了すると、[完了]画面が表示されます。

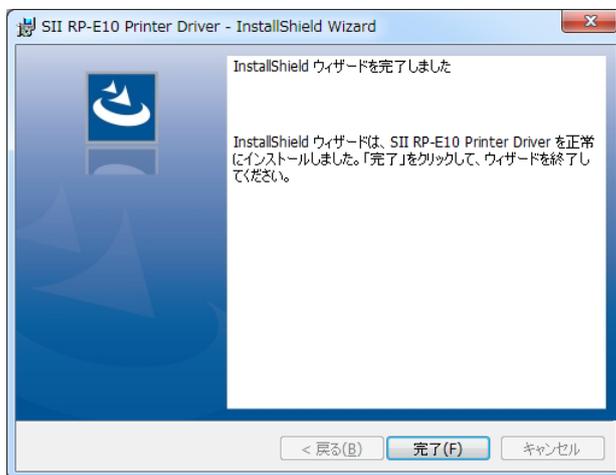


図 2-10 [完了]画面(TCP/IP接続)

2.2.5 共有プリンターのインストール

以下に共有プリンターのインストール手順について説明します。

4. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「マニュアルインストール」を選択し、「新しいポートの追加...」を選択します。

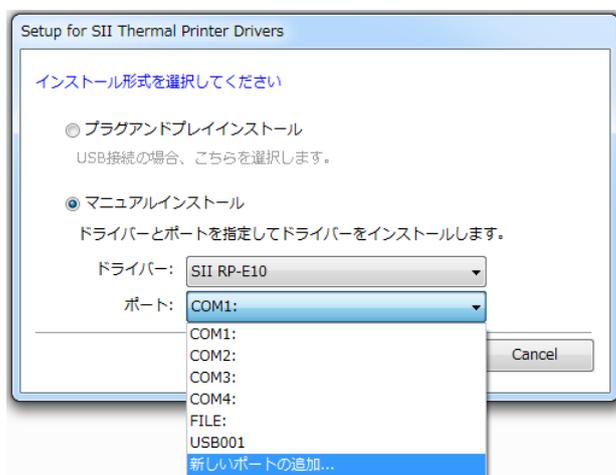


図 2-11 [インストール形式の選択]画面(共有プリンター)

5. [新しいポートの作成]画面が表示されますので、「ネットワークプリンターポート」を選択し、[プリンター名]を設定して[OK]ボタンをクリックします。[インストール形式の選択]画面のポートリストにポートが追加されます。

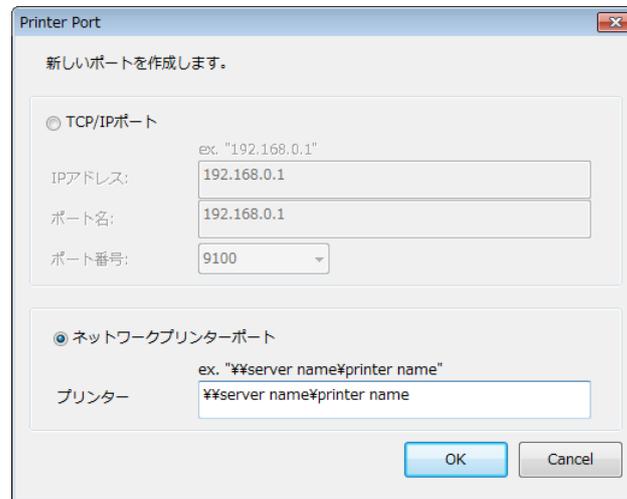


図 2-12 [新しいポートの作成]画面

6. [インストール形式の選択]画面に戻りますので、インストールするドライバーと接続するポートを選択し、[Install]ボタンをクリックしてインストールを開始します。
7. インストールが終了すると、[完了]画面が表示されます。

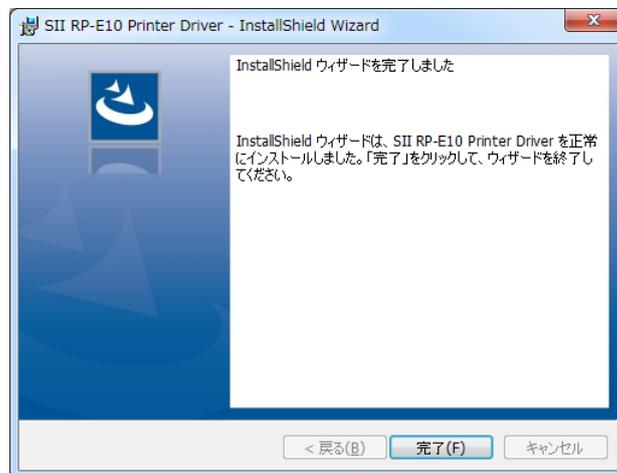


図 2-13 [完了]画面 (共有プリンター)

3章 印刷設定

3.1 概要

本章では印刷設定について説明します。

印刷設定は[印刷設定]ダイアログに各種設定画面が表示され、それぞれ確認及び変更することができます。

[印刷設定]ダイアログ上で表示される設定画面には以下の種類があります。

- ・ レイアウト : 印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。
- ・ 用紙/品質 : 印刷モードを設定します。
- ・ 書式設定 : 印刷書式を設定します。
- ・ フォント : IPDフォントを設定します。
- ・ ウォーターマーク : 印刷内容に重ねるイメージを設定します。

[印刷設定]ダイアログ上の設定画面は以下の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内のプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示します。
2. 表示したサブメニューから[印刷設定(G)]をクリックします。

各画面の詳細は次項以降で説明します。

注意

- ◆ Windows Server 2012以降でWindowsストアアプリから印刷を行う場合は、[印刷設定]画面で設定可能な項目の一部しか表示されません。

3.2 レイアウト

印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。

3.2.1 レイアウトの設定

[レイアウト]タブを選択し、以下の画面を表示します。

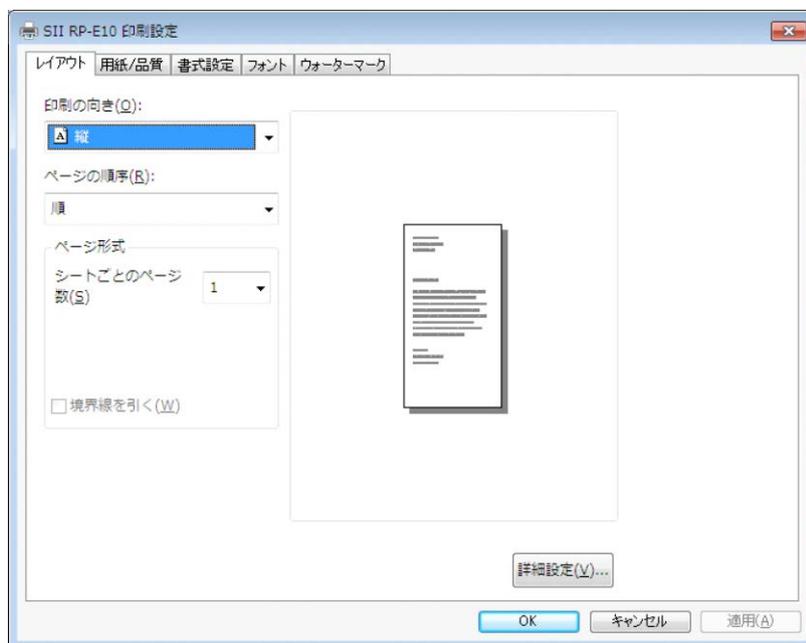


図 3-1 [レイアウト]画面

項目	説明（“ ”: 初期値）
印刷の向き(O)	印刷の向きを選択します。 ^{※1} <ul style="list-style-type: none">・ <u>縦</u>・ 横
ページの順序(R)	印刷するページの順序を選択します。 <ul style="list-style-type: none">・ <u>順</u>・ 逆
ページ形式	シートごとのページ数を設定します。
シートごとのページ数(S)	1シートごとに印刷するページ数を選択します。 <ul style="list-style-type: none">・ <u>1</u>・ 2・ 4・ 6・ 9・ 16
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は『3.7 詳細設定』を参照してください。

※1: 「横」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

3.3 用紙・品質

印刷モードを設定します。

3.3.1 用紙/品質の設定

[用紙/品質]タブを選択し、以下の画面を表示します。

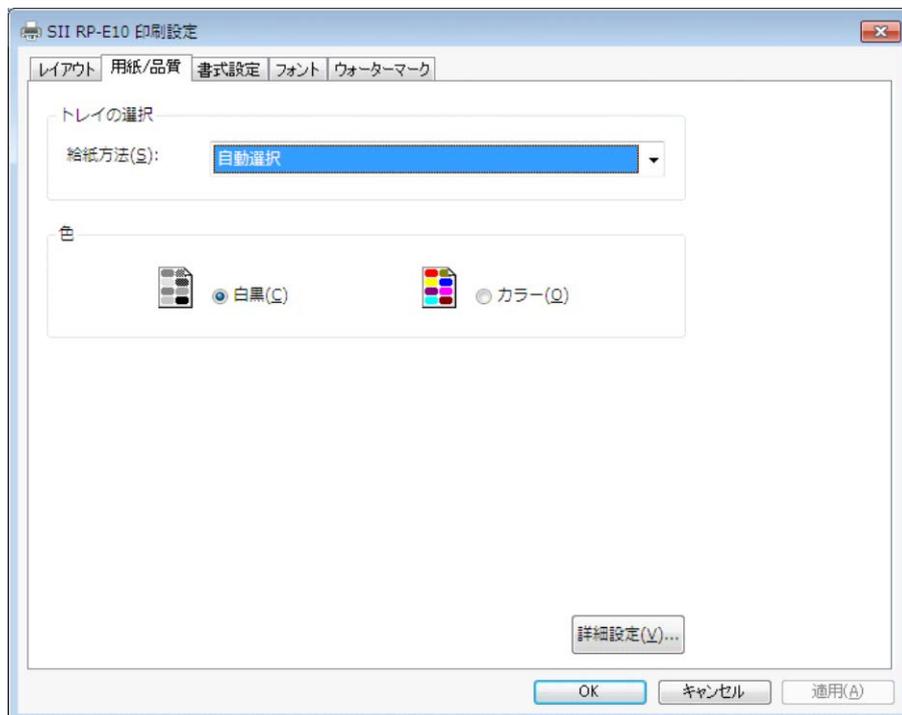


図 3-2 [用紙/品質]画面

項目	説明（ “ ”:初期値 ）
トレイの選択	給紙方法を設定します。
給紙方法(S)	給紙方法は「自動選択」で固定です。 ・ <u>自動選択</u>
色	印刷モードを選択します。 ^{※1、※2} ・ <u>白黒</u> （システム標準のハーフトーンを利用します） ・ <u>カラー</u> （プリンタードライバのハーフトーンを利用します）
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は『3.7 詳細設定』を参照してください。

※1: 「カラー」を選択すると『3.7 詳細設定』の[ハーフトーン]で、「自動選択」以外は選択できません。

※2: 本設定は『3.7 詳細設定』の[カラー印刷モード]と連動します。

3.4 書式設定

印刷書式を設定します。

3.4.1 書式の設定

[書式設定]タブを選択し、以下の画面を表示します。

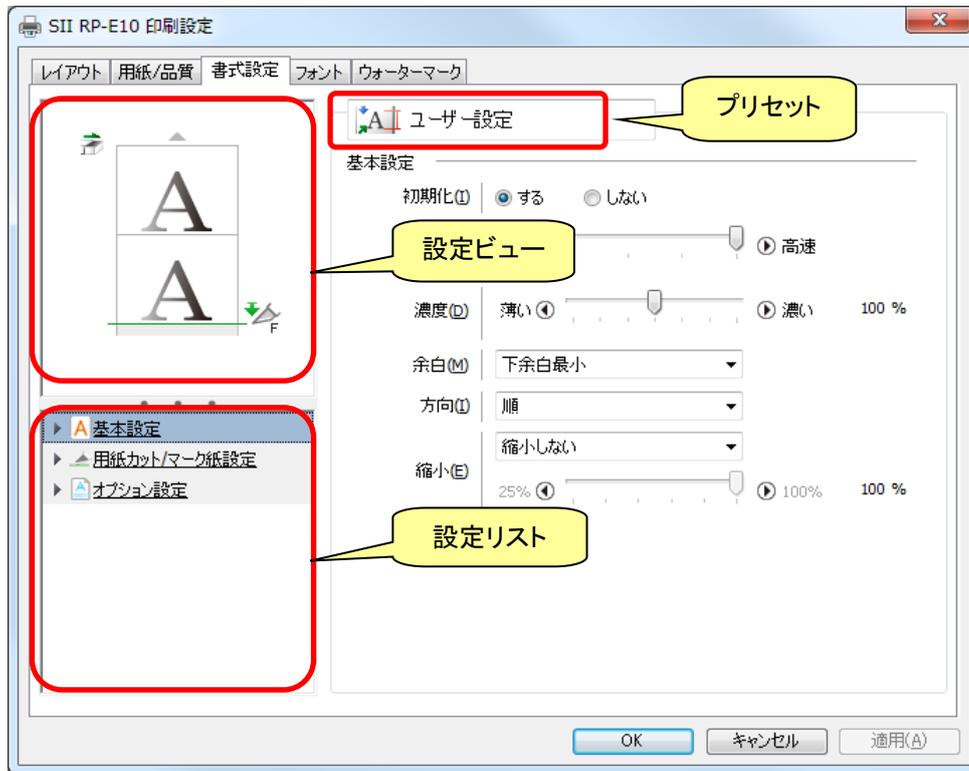
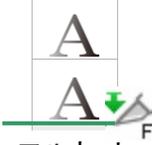
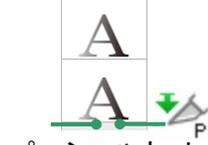
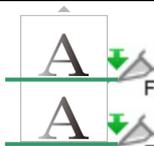
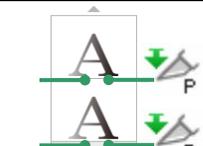
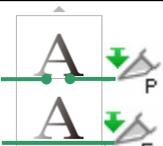


図 3-3 [書式設定]画面

項目	説明（“ ”:初期値）
設定ビュー	主な機能の設定状況を各種マークで表示します。 マークについては『3.4.2 [設定ビュー]のマーク一覧』を参照してください。
設定リスト	書式設定の全機能をカテゴリ別に表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては『3.4.3 [設定リスト]のカテゴリ』を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。
プリセット	各用途向けに予め登録されている設定内容に一括設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 80mmレシート設定 ・ 58mmレシート設定 ・ 80mmマーク紙設定 ・ 58mmマーク紙設定 ・ A4→80mm縮小設定 ・ A4→58mm縮小設定 ・ <u>ユーザー設定</u> 各プリセットの設定内容は『3.4.4 プリセットの利用』を参照してください。

3.4.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[書式設定]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは以下の通りです。

項目	マーク			
印刷の向き(O)	 縦※1		 横※1	
濃度(D)	 薄い		 濃い	
余白(M)	 最小余白	 上余白最小	 下余白最小	 最大余白
方向(R)	 順※2		 逆※2	
用紙カット(P)	 カットしない	 フルカット (ジョブ単位)	 パーシャルカット (ジョブ単位)	
	 フルカット (ページ単位)	 パーシャルカット (ページ単位)	 パーシャルカット (ページ間)	
カット位置までフィード(F)	 する		 しない	
ドロワ(D)	 ※3			

※1: [方向(R)]を「順」で選択している場合のマークです。

※2: [印刷の向き(O)]を「縦」で選択している場合のマークです。

※3: 『3.4.7 オプションの設定』で[印刷開始]にドロワを設定した場合は左上、[印刷終了]にドロワを設定した場合は右下に表示されます。

3.4.3 [設定リスト]のカテゴリ

[設定リスト]で表示される機能のカテゴリは以下の通りです。

カテゴリ	説明
基本設定	初期化や印字速度等、基本的な項目について設定します。
用紙カット/マーク紙設定	用紙のカットやマーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
オプション設定	印刷の各タイミングでの動作を設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.4.4 プリセットの利用

プリセットとは、予め各用途向けに決められたパラメーターに一括設定できる機能です。プリセットで設定された項目のうち、いずれかの設定が変更されればその時点でプリセットは解除され、[プリセット]は「ユーザー設定」に変更されます。プリセットを変更すると書式設定以外の項目も指定したプリセットの設定内容に変更されます。その際、各設定が変更されるメッセージは表示されません。

設定できるプリセットの種類とその設定内容は以下の通りです。

プリセット種類	項目	内容
80mmレシート設定 58mmレシート設定	詳細設定	
	用紙サイズ	80 mm 58 mm
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙カット/マーク紙設定	
	用紙カット(P)	フルカット(ジョブ単位)
	カット位置までフィード(F)	する
	マーク紙の頭出し(M)	しない
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロワ(D)	ドロワ1を利用
	ON時間	50 ms
OFF時間	200 ms	
80mmマーク紙設定 58mmマーク紙設定	詳細設定	
	用紙サイズ	80 mm 58 mm
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙カット/マーク紙設定	
	用紙カット(P)	フルカット(ページ単位)
	カット位置までフィード(F)	しない
	マーク紙の頭出し(M)	ページ単位
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロワ(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
OFF時間	200 ms	

プリセット種類	項目	内容
A4→80mm縮小設定 A4→58mm縮小設定	詳細設定	
	用紙サイズ	A4
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	80 mm用紙にフィット 58 mm用紙にフィット
	用紙カット/マーク紙設定	
	用紙カット(P)	フルカット(ページ単位)
	カット位置までフィード(F)	する
	マーク紙の頭出し(M)	しない
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
	オプション設定	
	印刷開始	
	ドロワ(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
OFF時間	200 ms	

各プリセット共通の設定内容は以下の通りです。

種類	項目	内容
共通設定	レイアウト	
	印刷の向き(O)	縦
	書式設定	
	基本設定	
	初期化(I)	する
	速度(S)	高速
	濃度(D)	100 %
	余白(M)	下余白最小
	方向(R)	順
	オプション設定	
	(全タイミング共通)	
	ロゴ有無(L)	なし
	紙送り(F)	0 dot
	ブザー(B)	OFF
	コマンド送信(S)	(空欄)
	印刷終了	
	ドロワ種類(D)	利用しない
	ON時間	50 ms
	OFF時間	200 ms
	ウォーターマーク	
ウォーターマーク設定		
イメージ(I)	なし	

3.4.5 基本設定

[設定リスト]の[基本設定]を選択し、以下の画面を表示します。

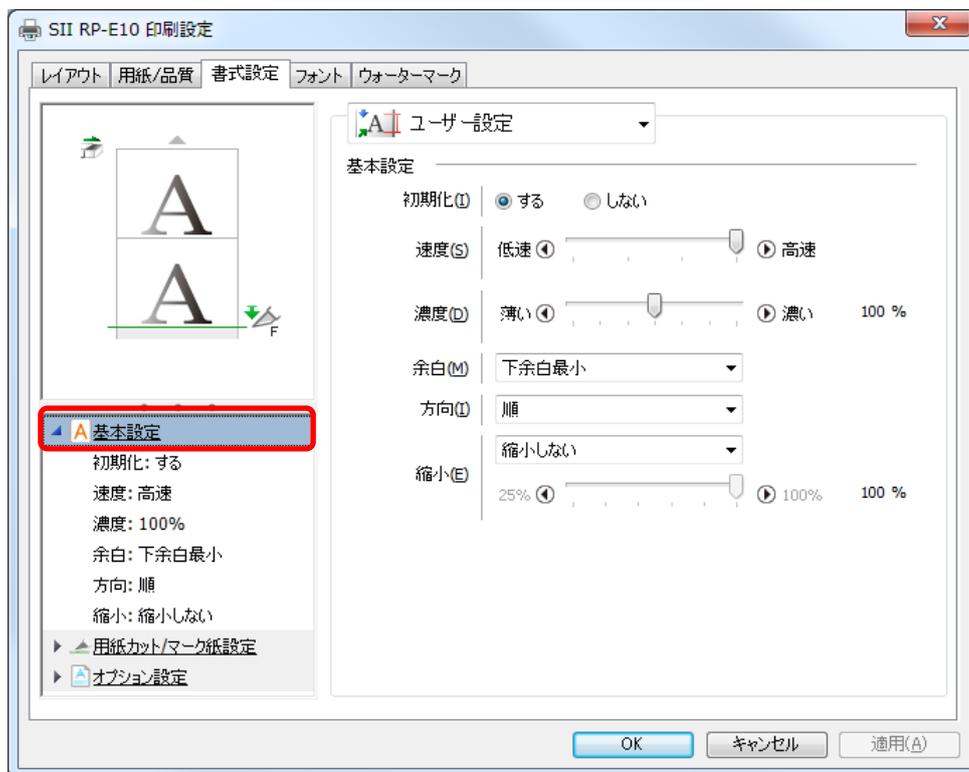


図 3-4 [基本設定]画面

項目	説明（“ ”: 初期値）
基本設定	初期化、印刷速度等、基本的な項目について設定します。
初期化(I)	印刷前にプリンターを初期化するか、初期化しないかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>する</u> ・ <u>しない</u>
速度(S)	印刷速度を選択します。 ^{※1} <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>低速</u> ・ 中速（品質） ・ 中速（静音） ・ <u>高速</u>
濃度(D)	印刷濃度を設定します。(単位:%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 70 ~ 130 (<u>100</u>)
余白(M)	余白を選択します。 ^{※2} <ul style="list-style-type: none"> ・ 最小余白 ・ 上余白最小 ・ <u>下余白最小</u> ・ 最大余白
方向(R)	印刷排出の方向を選択します。 ^{※3} <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>順</u> ・ <u>逆</u>

項目	説明（“ ”: 初期値）
縮小(E)	縮小印刷を設定します。※4 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>縮小しない</u> ・ 80 mm用紙にフィット ・ 58 mm用紙にフィット ・ 指定倍率[25 ~ 100](単位:%)

※1: プリンターのF/Wバージョンが1.02以前の場合は、「中速(静音)」以外を選択してください。

※2: 印刷内容が3cmに満たない場合、3cmとなるまで紙送りします。

※3: 「逆」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

※4: 「縮小しない」以外に設定すると、IPDフォントは使用できません。

参考

• 方向

[方向(R)]を「逆」に設定すると、印刷するデータを180度回転させることができます。プリンター本体が前出しモデルの場合「逆」に設定すると、お客様にとって見やすい方向で印刷することができます。

• 余白の節約

[余白(M)]を設定することで余白長が短くなり用紙の節約ができます。

	印刷開始から 最初の印刷データまでの 余白を節約	最後の印刷データから 用紙カットまでの 余白を節約
最小余白	○	○
上余白最小	○	—
下余白最小	—	○
最大余白	—	—

余白の詳細については『6.3 余白』を参照してください。

3.4.6 用紙カット/マーク紙の設定

[設定リスト]の[用紙カット/マーク紙設定]を選択し、以下の画面を表示します。

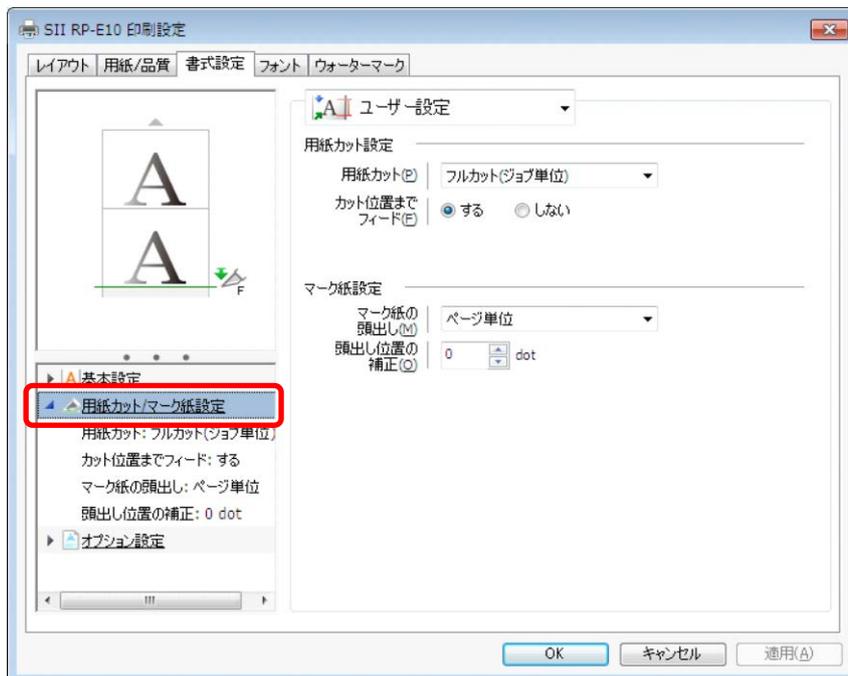


図 3-5 [用紙カット/マーク紙設定]画面

項目	説明（“ ”: 初期値）
用紙カット設定	用紙のカットについて設定します。
用紙カット(P)	用紙のカット方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ カットしない ・ <u>フルカット(ジョブ単位)</u> ・ パーシャルカット(ジョブ単位) ・ フルカット(ページ単位) ・ パーシャルカット(ページ単位) ・ パーシャルカット(ページ間)^{※1}
カット位置までフィード(F)	カット位置までフィードするか、フィードしないかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>する</u> ・ しない
マーク紙設定	マーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
マーク紙の頭出し(M)	ブラックマークの検出動作を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>しない</u> ・ ページ単位 ・ ジョブ単位
頭出し位置の補正(O)	頭出し位置の補正を設定します。(単位: dot) <ul style="list-style-type: none"> ・ -74 ~ 255 (<u>0</u>)^{※2}

※1: 最後のページはフルカットになります。

※2: プリンターのF/Wバージョンが1.02以前の場合、[頭出し位置の補正]には「-69」以下の値を入力しないでください。「-69」以下の値を入力した場合は[頭出し位置の補正]は無効になります。

3.4.7 オプションの設定

[設定リスト]の[オプション設定]を選択し、以下の画面を表示します。

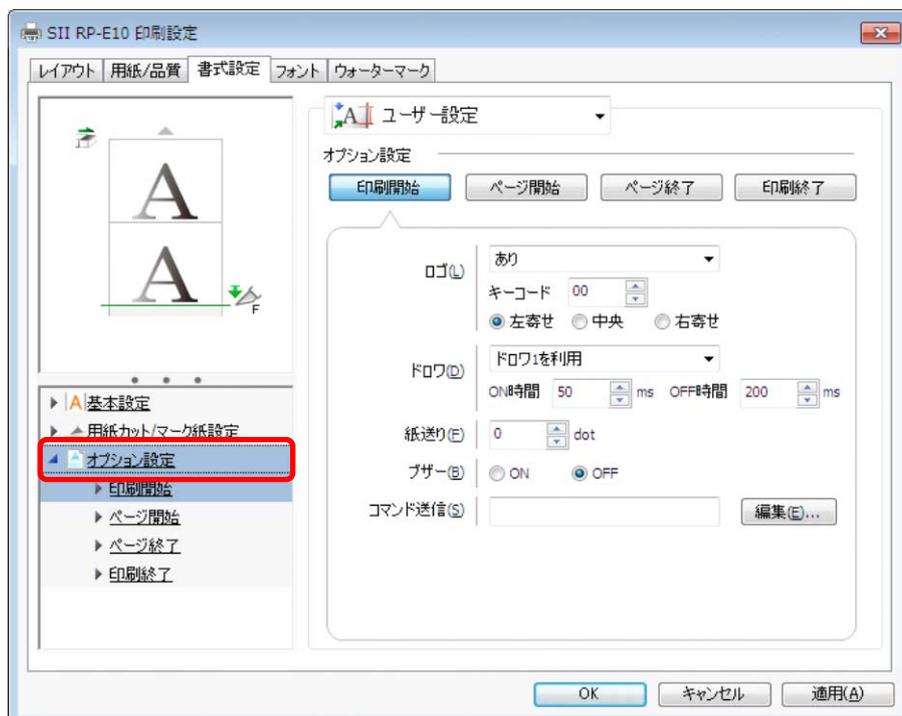


図 3-6 [オプション設定]画面

項目	説明（“ ”: 初期値）
オプション設定	ロゴ、ドロワ、紙送り、ブザー及びコマンド送信について設定します。
印刷開始 ページ開始 ページ終了 印刷終了	各タイミングでの動作を設定します。
ロゴ(L)	ロゴについて設定します。
ロゴ有無	ロゴの有無を選択します。 ・ <u>なし</u> ・ あり
キーコード	ロゴに使用するキーコードを設定します。 ・ <u>00</u> ~ 99
ロゴ位置	ロゴを印刷する位置を選択します。 ・ <u>左寄せ</u> ・ 中央 ・ 右寄せ
ドロワ(D)	ドロワについて設定します。 ^{※1}
ドロワ選択	利用するドロワを選択します。 ・ <u>利用しない</u> ^{※2} ・ <u>ドロワ1を利用</u> ^{※3} ・ ドロワ2を利用
ON時間	ドロワのON時間を偶数値で入力します。(単位:ms) ^{※4} ・ 2 ~ 510 (<u>50</u>)

項目	説明（“ <u> </u> ”:初期値）
OFF時間	ドロワのOFF時間を偶数値で入力します。(単位:ms) ^{※4、※5} ・ 2 ~ 510 (<u>200</u>)
紙送り(F)	紙送りを設定します。(単位:dot) ・ -74 ~ 255 (<u>0</u>)
ブザー(B)	ブザーを設定します。 ・ ON ・ <u>OFF</u>
コマンド送信(S)	送信するプリンターコマンドを設定します。
コマンドデータ	送信するプリンターコマンドを表示します。 ^{※6} 入力には[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。 入力したプリンターコマンドは[コマンドデータ]に表示されます。 指定可能バイト数は最大128バイトです。 バイナリエディターについては『3.4.8 バイナリエディターの使用方法』を参照してください。

- ※1: [印刷開始]または[印刷終了]どちらか一方のみ指定できます。
 ※2: [印刷終了]の初期値です。
 ※3: [印刷開始]の初期値です。
 ※4: 奇数値を入力した場合、内部で範囲内の値に丸め込みます。
 ※5: 回路保護のため必ず[ON時間]の4倍以上の時間を設定してください。
 ※6: 直接入力を受け付けません。

参考

- ロゴ
定型のイメージをロゴとして印刷する機能です。ロゴに使用するイメージはNVイメージを利用します。NVイメージについては『5.6 NVイメージ』を参照してください。

3.4.8 バイナリエディターの使用方法

プリンターコマンドや任意のデータを入力するコントロールでは、バイナリエディターを使用します。

バイナリエディターは以下の場合に使用します。

- [書式設定]の[オプション設定]の[コマンド送信(S)]
- [コントロールAフォント設定]
- [ツール]の[テスト印刷]の[カスタムコマンド(U)]の設定

[編集(E)...]ボタンをクリックし、以下の画面を表示します。

16 進数を入力し、[OK]ボタンをクリックすると入力が入力が確定します。

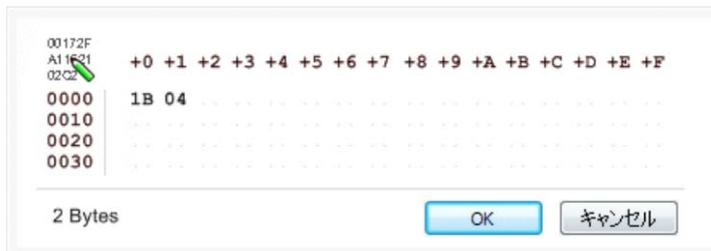


図 3-7 [バイナリエディター]画面

3.5 フォント

IPD フォントを設定します。

注意

- ◆ 以下の設定の場合、IPDフォントの設定は利用できません。
 - ・『3.2.1 レイアウトの設定』の[印刷の向き(O)] :「横」
 - ・『3.4.5 基本設定』の[方向(R)] :「逆」
 - ・『3.4.5 基本設定』の[縮小(E)] :「縮小しない」以外
 - ・『3.6.4 ウォーターマークの設定』の[イメージ(I)] :「NVイメージ」

参考

- IPDフォントについては『7章 フォント』を参照してください。

3.5.1 フォントの設定

[フォント]タブを選択し、以下の画面を表示します。

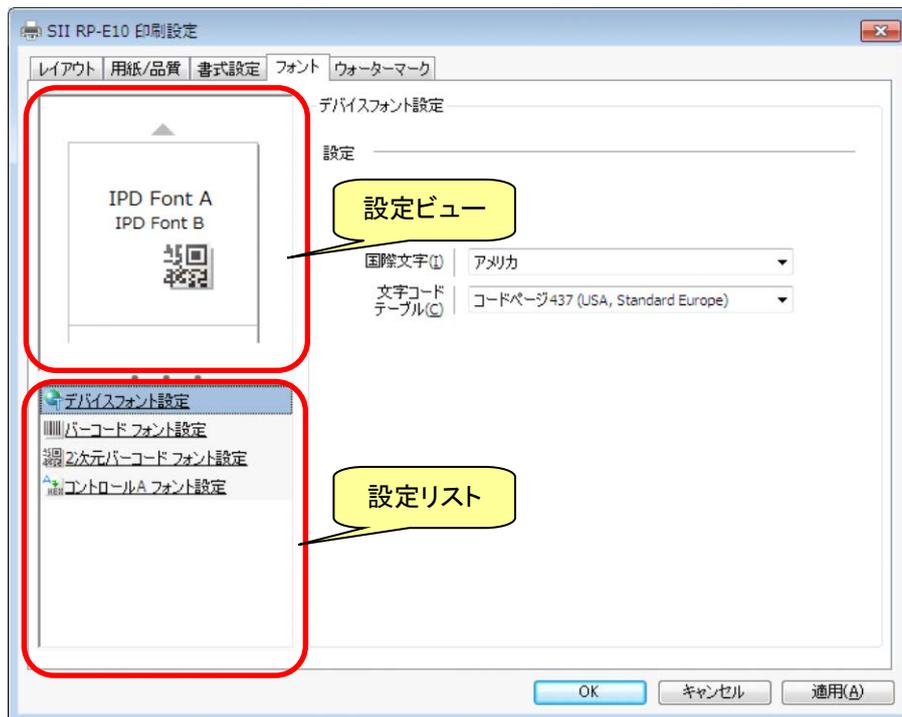


図 3-8 [フォント]画面

項目	説明
設定ビュー	現在の設定状況でIPDフォントが利用できるかをマークで表示します。マークについては『3.5.2 [設定ビュー]のマーク一覧』を参照してください。
設定リスト	フォントのカテゴリ名を表示します。カテゴリ名を選択すると該当する設定画面を表示します。

3.5.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[フォント]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは以下の通りです。

状況	マーク
IPDフォント利用可	
IPDフォント利用不可	

3.5.3 [設定リスト]のカテゴリ

[フォント]画面の[設定リスト]で表示されるカテゴリは以下の通りです。

カテゴリ	説明
デバイスフォント設定	デバイスフォントで使用する国際文字と文字コードテーブルについて設定します。
バーコードフォント設定	バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
2次元バーコードフォント設定	2次元バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
コントロールAフォント設定	コントロールAフォントに割り当てるプリンターコマンドについて設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.5.4 デバイスフォントの設定

[設定リスト]の[デバイスフォント設定]を選択し、以下の画面を表示します。

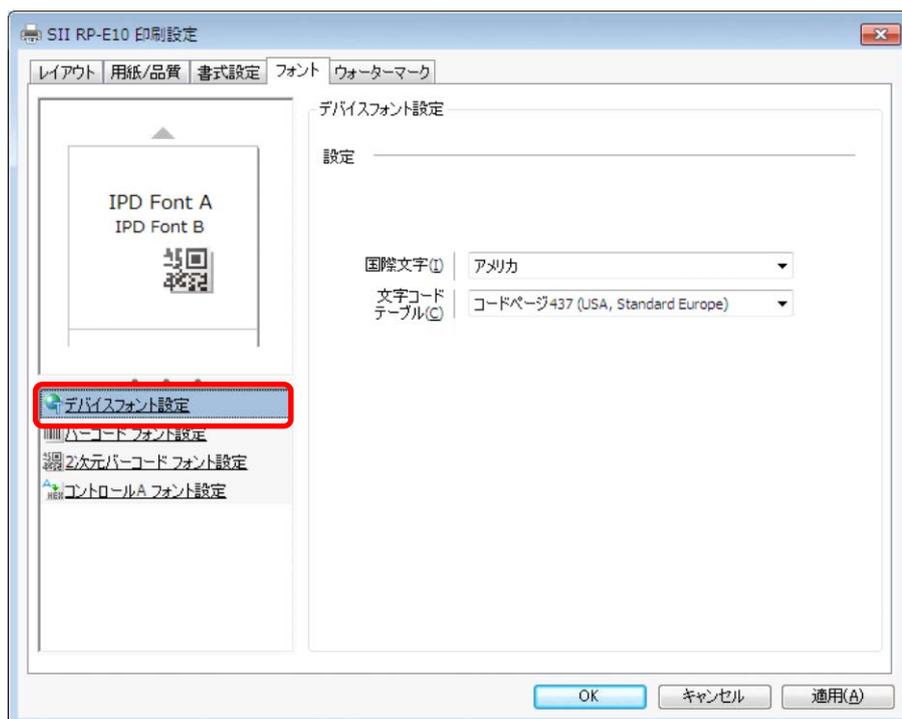


図 3-9 [デバイスフォント設定]画面

項目	説明（“ ”:初期値）
設定	デバイスフォントについて設定します。
国際文字(I)	国際文字を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>アメリカ</u> ・ フランス ・ ドイツ ・ イギリス ・ デンマークI ・ スウェーデン ・ イタリア ・ スペインI ・ 日本 ・ ノルウェー ・ デンマークII ・ スペインII ・ ラテンアメリカ ・ アラビア
文字コードテーブル(C)	文字コードテーブルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>コードページ437 (USA, Standard Europe)</u> ・ カタカナ文字セット ・ コードページ850(Multilingual) ・ コードページ860(Portuguese) ・ コードページ863(Canadian-French) ・ コードページ865(Nordic) ・ コードページ1252(Latin) ・ コードページ852(Eastern Europe) ・ コードページ858(Euro) ・ コードページ864(Arabic) ・ コードページ1250(Central European) ・ コードページ1251(Cyrillic) ・ コードページ1253(Greek) ・ コードページ1254(Turkish) ・ ユーザーページ

3.5.5 バーコードフォントの設定

[設定リスト]の[バーコードフォント設定]を選択し、以下の画面を表示します。

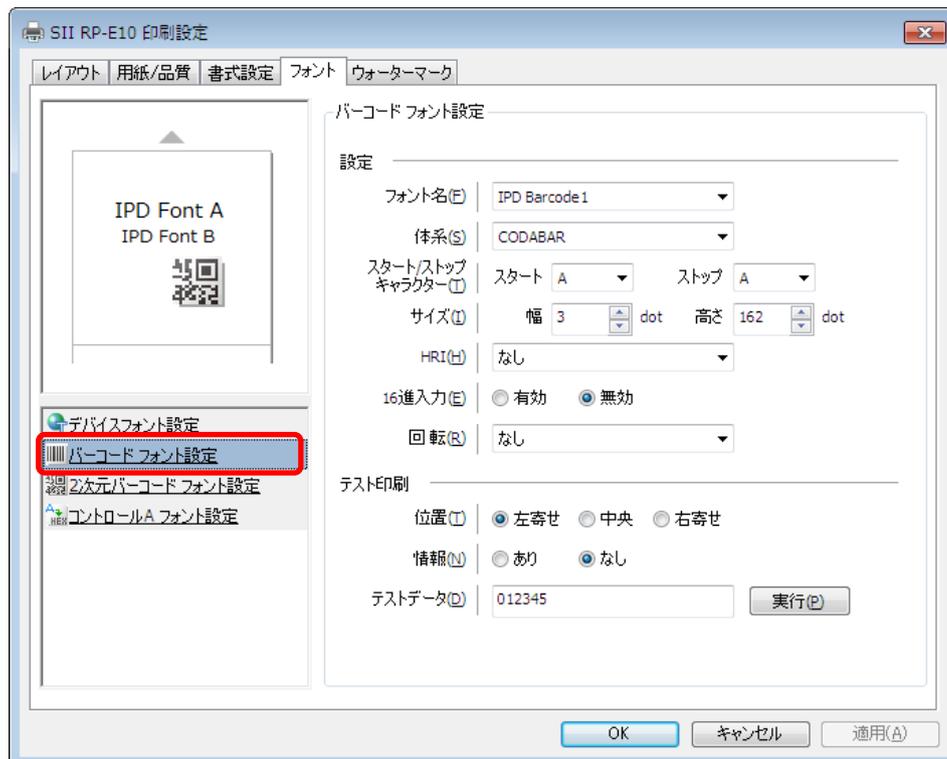


図 3-10 [バーコードフォント設定]画面

項目	説明（“ ”:初期値）
設定	バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F)	フォント名を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>IPD Barcode1</u> ・ IPD Barcode2 ・ IPD Barcode3 ・ IPD Barcode4 ・ IPD Barcode5 ・ IPD Barcode6 ・ IPD Barcode7 ・ IPD Barcode8 ・ IPD Barcode9 ・ IPD Barcode10

項目	説明（“ <u> </u> ”:初期値）
体系(S)	バーコードの体系を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>UPC-A</u> ・ UPC-E ・ JAN13(EAN) ・ JAN8(EAN) ・ Code39 ・ ITF ・ CODABAR ・ CODE128 ・ CODE93 ・ JAN13(アドオン 2) ・ JAN13(アドオン 5)
スタート/ストップ キャラクター(C)	スタートキャラクター/ ストップキャラクターを設定します。*1
Start	「CODABAR」のスタートキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>A</u> ・ B ・ C ・ D
Stop	「CODABAR」のストップキャラクターを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>A</u> ・ B ・ C ・ D
サイズ(I)	バーコードのサイズを設定します。
幅	バーコードの細エレメント幅をドット単位で設定します。 ・ 2 ~ 6 (<u>3</u>)
高さ	バーコードの高さをドット単位で設定します。 ・ 1 ~ 255 (<u>162</u>)
HRI(H)	バーコードに付加するHRI文字の位置及びフォントを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>なし</u> ・ バーコードの上(フォントA) ・ バーコードの下(フォントA) ・ バーコードの上下(フォントA) ・ バーコードの上(フォントB) ・ バーコードの下(フォントB) ・ バーコードの上下(フォントB)
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合、「有効」を選択します。*2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有効 ・ <u>無効</u>
回転(R)	バーコードの印刷時の回転有無と回転時の角度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>なし</u> ・ 右に90度 ・ 180度 ・ 左に90度

項目	説明（“ ”:初期値）
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	バーコードの位置を選択します。 ・ <u>左寄せ</u> ・ 中央 ・ 右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・ あり ・ <u>なし</u>
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角入力のみ有効です。※2
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]でバーコードを印刷します。※3

※1: [体系(S)]で「CODABAR」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※2: バーコードフォントデータの入力形式は以下の通りです。

バーコードフォントデータ(012345)入力例

[16進入力(E)]が「無効」の場合 :012345

[16進入力(E)]が「有効」の場合 :303132333435

※3: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.5.6 2次元バーコードフォントの設定

[設定リスト]の[2次元バーコードフォント設定]を選択し、以下の画面を表示します。

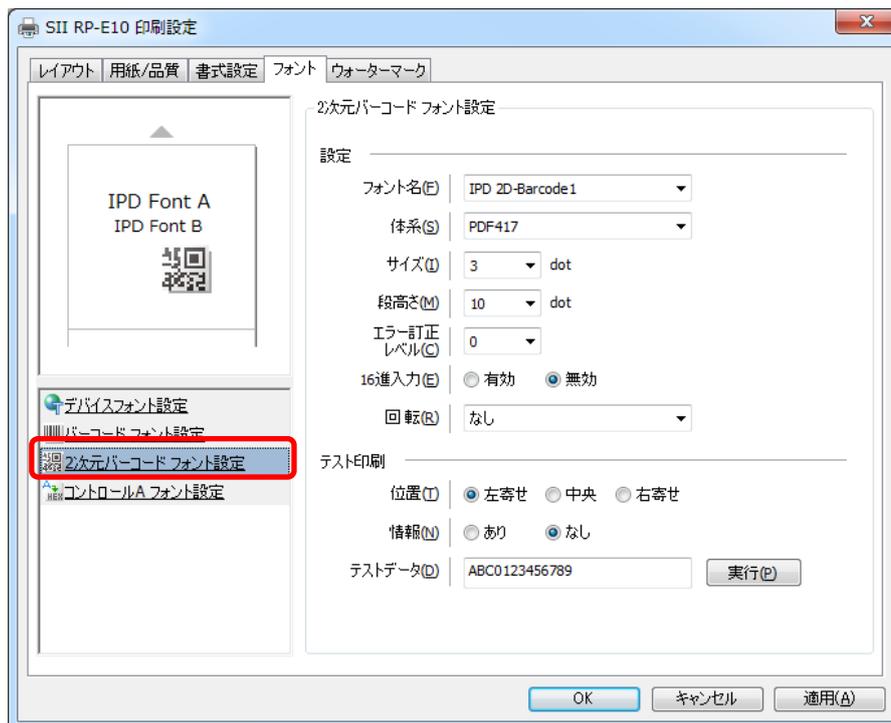


図 3-11 [2次元バーコードフォント設定]画面

項目	説明（“ <u> </u> ”:初期値）
設定	2次元バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F)	フォント名を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>IPD 2D-Barcode1</u> ・ IPD 2D-Barcode2 ・ IPD 2D-Barcode3 ・ IPD 2D-Barcode4 ・ IPD 2D-Barcode5
体系(S)	2次元バーコードの体系を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>QR Code Model-2</u> ・ PDF417
サイズ(I)	1モジュールのサイズをドット単位で設定します。 [体系(S)]が「QR Code Model-2」の場合： <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 11 (<u>6</u>) [体系(S)]が「PDF417」の場合： <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 4 (<u>3</u>)
段高さ(H)	段高さをドット単位で設定します。 ^{※1} <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 127 (<u>10</u>)
エラー訂正レベル(C)	エラー訂正レベルを選択します。 [体系(S)]が「QR Code Model-2」の場合： <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>L</u> ・ M ・ Q ・ H [体系(S)]が「PDF417」の場合： <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>0</u> ~ 8
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合、「有効」を選択します。 ^{※2} <ul style="list-style-type: none"> ・ 有効 ・ <u>無効</u>
回転(R)	2次元バーコードの印刷時の回転有無と回転時の角度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>なし</u> ・ 右に90度 ・ 180度 ・ 左に90度
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	2次元バーコードの位置を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>左寄せ</u> ・ 中央 ・ 右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ あり ・ <u>なし</u>
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角文字及び全角文字のいずれも有効です。 ^{※2}
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]で2次元バーコードを印刷します。 ^{※3}

- ※1: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合のみ画面に表示されます。
- ※2: バーコードフォントデータの入力形式は以下の通りです。
バーコードフォントデータ(012345)入力例
[16進入力(E)]が「無効」の場合 :012345
[16進入力(E)]が「有効」の場合 :303132333435
- ※3: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.5.7 コントロールAフォントの設定

[設定リスト]の[コントロール A フォント設定]を選択し、以下の画面を表示します。

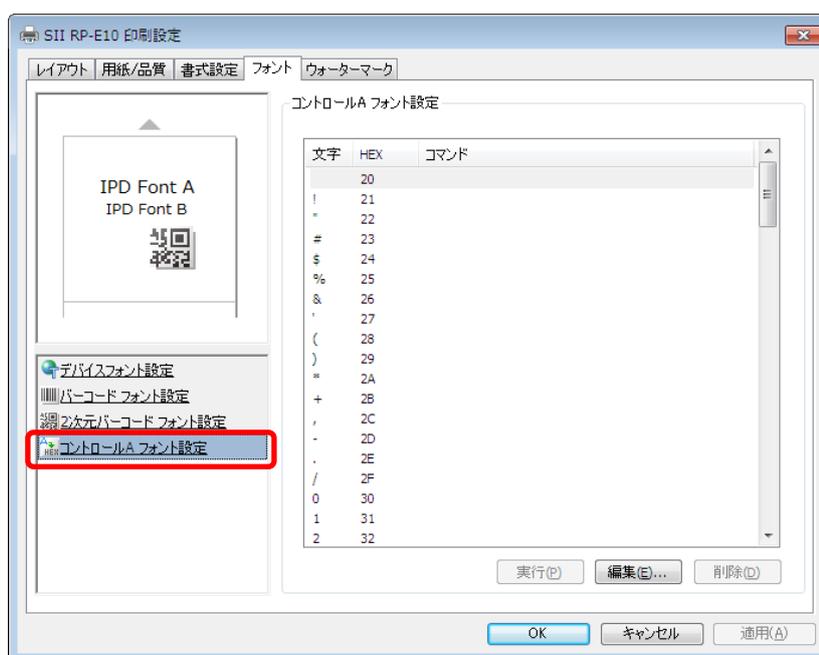


図 3-12 [コントロールAフォント設定]画面

項目	説明
文字	プリンターコマンドを割り当てる文字を表示します。
HEX	[文字]を16進数で表示します。
コマンド	設定されているプリンターコマンドを表示します。 プリンターコマンドの入力は[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
実行(P)	選択中のリストに入力されているプリンターコマンドを実行します。 ※1
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。※2 入力したプリンターコマンドは[コマンド]列に表示されます。 指定可能バイト数は最大256バイトです。 バイナリエディターについては『3.4.8 バイナリエディターの使用方法』を参照してください。
削除(D)	選択中のリストの[コマンド]欄をクリアします。※1、※2

※1: 選択中のリストの[コマンド]が空白の場合、操作できません。

※2: アプリケーションからの印刷時に起動された[印刷設定]画面からは操作できません。操作が必要な場合、プリンターフォルダーから[印刷設定]画面を起動してください。

3.6 ウォーターマーク

印刷内容に重ねるイメージを設定します。

重ねるイメージはユーザーが事前にプリンターに登録した NV イメージを使用します。

ウォーターマークを利用するには NV イメージの登録が必要です。NV イメージの登録については『5.6 NV イメージ』を参照してください。

注意

- ◆ ウォーターマークとして使用するNVイメージが印刷領域よりも大きい場合、ウォーターマーク印刷はされません。

3.6.1 ウォーターマーク

[ウォーターマーク]タブを選択し、以下の画面を表示します。

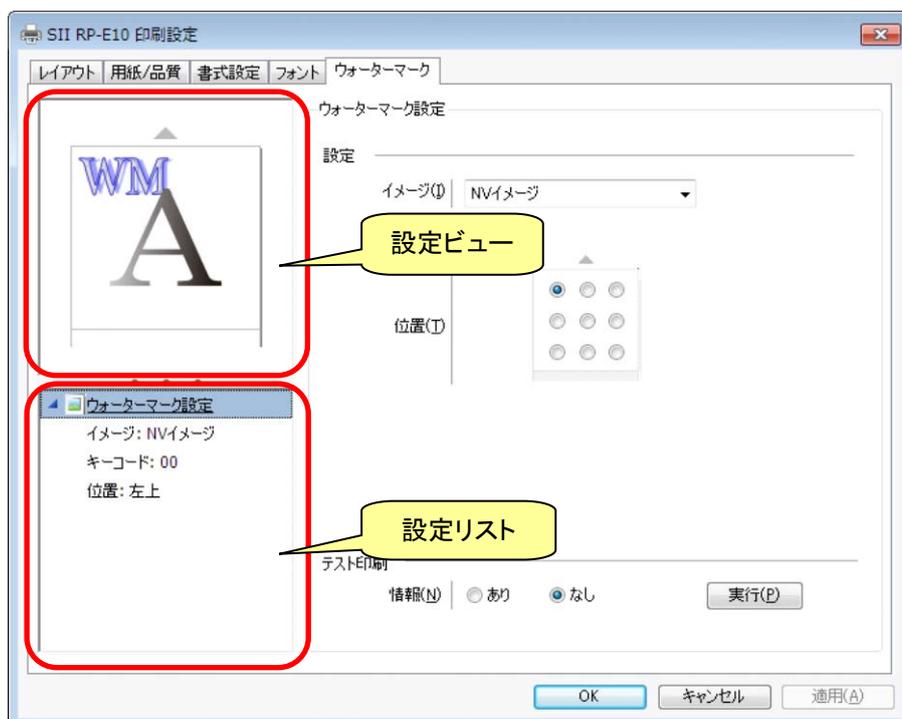


図 3-13 [ウォーターマーク]画面

項目	説明
設定ビュー	ウォーターマークの位置をマークで表示します。 詳しくは『3.6.2 [設定ビュー]のマーク一覧』を参照してください。
設定リスト	ウォーターマークの設定をカテゴリで表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては『3.6.3 [設定リスト]のカテゴリ』を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。

3.6.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[ウォーターマーク]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは以下の通りです。

項目	マーク		
位置(T)	 左上	 中央上	 右上
	 左	 中央	 右
	 左下	 中央下	 右下

3.6.3 [設定リスト]のカテゴリ

[ウォーターマーク]画面の[設定リスト]で表示される設定は以下の通りです。

カテゴリ	説明
ウォーターマーク設定	ウォーターマークについて設定します。

ウォーターマーク設定については、次項以降で説明します。

3.6.4 ウォーターマークの設定

[ウォーターマーク]タブを選択し、以下の画面を表示します。

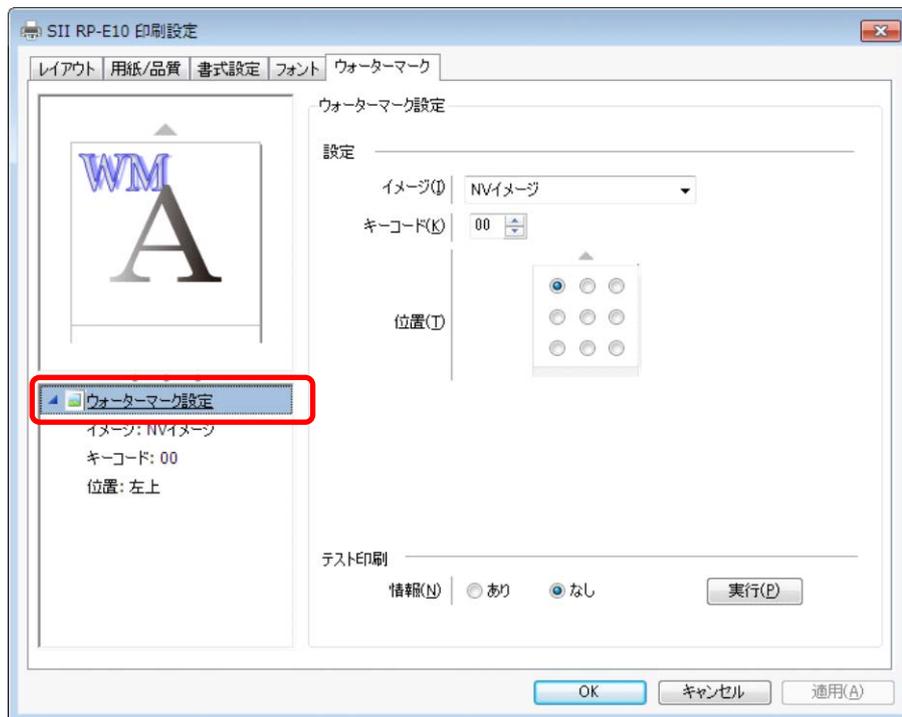


図 3-14 [ウォーターマーク設定]画面

項目	説明（“___”：初期値）
設定	ウォーターマークについて設定します。
イメージ(I)	ウォーターマークで使用するイメージの種類を設定します。 ^{※1} <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>なし</u> ・ NVイメージ
キーコード(K)	ウォーターマークに使用するイメージのキーコードを入力します。 ^{※2} <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>00</u> ~ 99
位置(T)	ウォーターマークの位置を選択します。 ^{※2} <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>左上</u> ・ 中央上 ・ 右上 ・ 左 ・ 中央 ・ 右 ・ 左下 ・ 中央下 ・ 右下
テスト印刷	テスト印刷について設定します。 ^{※2}
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ あり ・ <u>なし</u>
実行(P)	入力された設定・データでウォーターマークを印刷します。

- ※1: 「なし」以外を選択すると、IPDフォントは使用できません。
※2: [イメージ(I)]を「なし」に選択している場合、表示されません。

3.6.5 ウォーターマークの利用

以下にウォーターマークを利用する手順について説明します。

1. 『5.6 NVイメージ』でウォーターマークに使用するイメージを登録します。
2. [印刷設定]の[ウォーターマーク設定]画面の[イメージ(I)]で「NVイメージ」を選択します。
3. ウォーターマークに使用するイメージのキーコードを[キーコード(K)]に入力します。
4. ウォーターマークの位置を[位置(T)]で選択します。
5. [適用(A)]ボタンをクリックします。

3.7 詳細設定

3.7.1 詳細オプションの設定

[レイアウト]画面及び[用紙/品質]画面の、右下の[詳細設定(V)...]ボタンをクリックし、以下の画面を表示します。

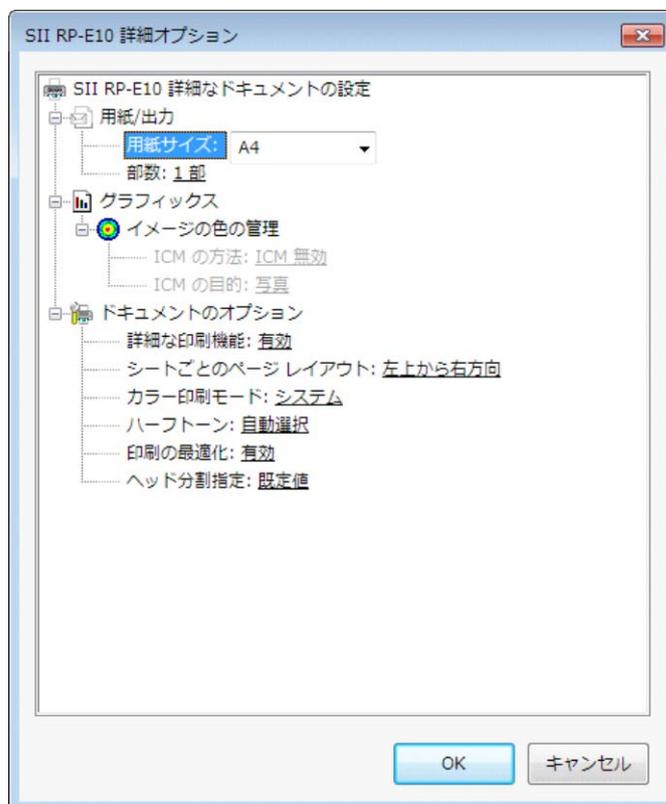


図 3-15 [詳細オプション]画面

項目	説明（“ ”:初期値）
用紙/出力	用紙サイズ、部数を設定します。
用紙サイズ	使用する用紙サイズを選択します。※1 <ul style="list-style-type: none"> ・ 58 mm ・ 80 mm ・ <u>A4</u>※2 ・ <u>Letter</u>※3
部数	印刷する部数を入力します。(単位:部) <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>1</u> ~ 9999
グラフィックス	ICMの方法、目的を設定します。※4
ICMの方法	ICMの方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ICM無効</u> ・ ホストシステムによるICM処理 ・ プリンターによるICM処理

項目	説明（ “ ”:初期値 ）
ICMの目的	ICMの目的を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>グラフィック</u> ・ <u>写真</u> ・ <u>校正</u> ・ <u>一致</u>
ドキュメントのオプション	ドキュメントのオプションを設定します。
詳細な印刷機能	詳細な印刷機能を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>有効</u> ・ <u>無効</u>
シートごとのページレイアウト	シートごとのページレイアウトを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>左上から右方向</u> ・ <u>左上から下方向</u> ・ <u>右上から左方向</u> ・ <u>右上から下方向</u>
カラー印刷モード	カラー印刷モードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>システム</u> ・ <u>ドライバー</u> この選択は『3.3 用紙・品質』の[色]の設定と連動しています。※5
ハーフトーン	ハーフトーンを選択します。※6 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自動選択</u> ・ <u>スーパーセル</u> ・ <u>ディザー 2x2</u> ・ <u>ディザー 4x4</u> ・ <u>ディザー 6x6</u> ・ <u>ディザー 8x8</u>
印刷の最適化	印刷の最適化を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>有効</u> ・ <u>無効</u>
ヘッド分割指定	ヘッド分割指定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>既定値</u>※7 ・ <u>固定2分割</u> ・ <u>固定4分割</u> ・ <u>動的64dot</u> ・ <u>動的144dot</u> ・ <u>動的288dot</u>

※1: ユーザーが新規に登録した用紙を設定することもできます。用紙に登録する方法については、『6.4 カスタム用紙の登録方法』を参照してください。

※2: 日本語環境での初期値です。

※3: 日本語環境以外での初期値です。

※4: 『3.3 用紙・品質』の[色]で「カラー(O)」を選択した場合のみ設定できます。

※5: 「システム」を選択した場合は[用紙/品質]画面の[色]が「白黒(O)」、「ドライバー」を選択した場合は[用紙/品質]画面の[色]が「カラー(O)」に連動します。詳しくは『3.3 用紙・品質』を参照してください。

※6: 『3.3 用紙・品質』の[色]で「カラー(O)」を選択した場合、「自動選択」以外は選択できません。

※7: プリンターの設定に従います。

4章 プロパティ

4.1 概要

本章ではプロパティ設定について説明します。

プロパティ設定は[プロパティ]ダイアログに各種設定画面が表示され、それぞれ確認及び変更することができます。

[プロパティ]ダイアログ上で表示される設定画面には以下の種類があります。

- ・ 全般 : プリンタードライバー全般の管理及びテストページを印刷します。
- ・ 共有 : 共有プリンターを設定します。
- ・ ポート : 出力ポートを設定します。
- ・ ツール : プリンタードライバーのバージョン情報と各種ツールの起動ボタンを表示します。

[プロパティ]ダイアログ上の設定画面は以下の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内に表示されているプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示します。
2. 表示されたサブメニューから[プリンターのプロパティ(P)]をクリックします。

各詳細は次項以降で説明します。

注意

- ◆ [プロパティ]画面で表示される上記以外の設定画面は、インストール時の設定のままで使用してください。

4.2 全般

プリンタードライバー全般の管理及びテストページを印刷します。

4.2.1 全般の設定

[全般]タブを選択し、以下の画面を表示します。

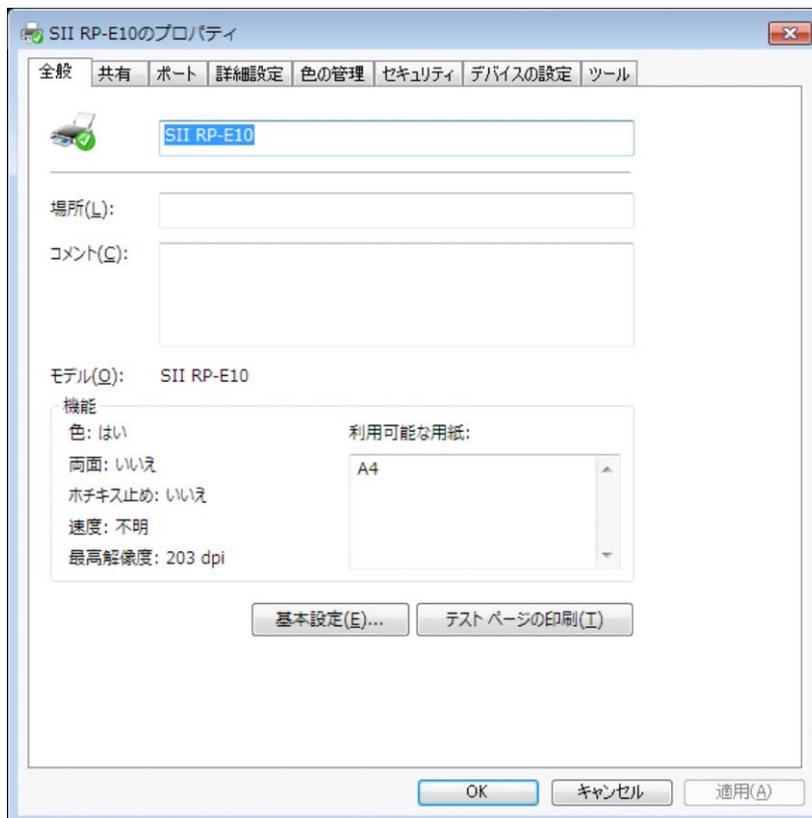


図 4-1 [全般]画面

項目	説明
プリンター名	プリンター名を表示、変更します。
場所(L)	プリンターの設置場所を入力します。
コメント(C)	コメントを入力します。
モデル(O)	プリンタードライバー名を表示します。
基本設定(E)...	[印刷設定]画面が開きます。
テストページの印刷(T)	Windowsのテスト印刷を実行します。※1

※1: [テストページの印刷(T)]による印刷は、小型プリンター向け用紙幅では正しく印刷できないため印刷内容が崩れますが不具合ではありません。

4.3 共有

共有プリンターを設定します。

4.3.1 共有の設定

[共有]タブを選択し、以下の画面を表示します。

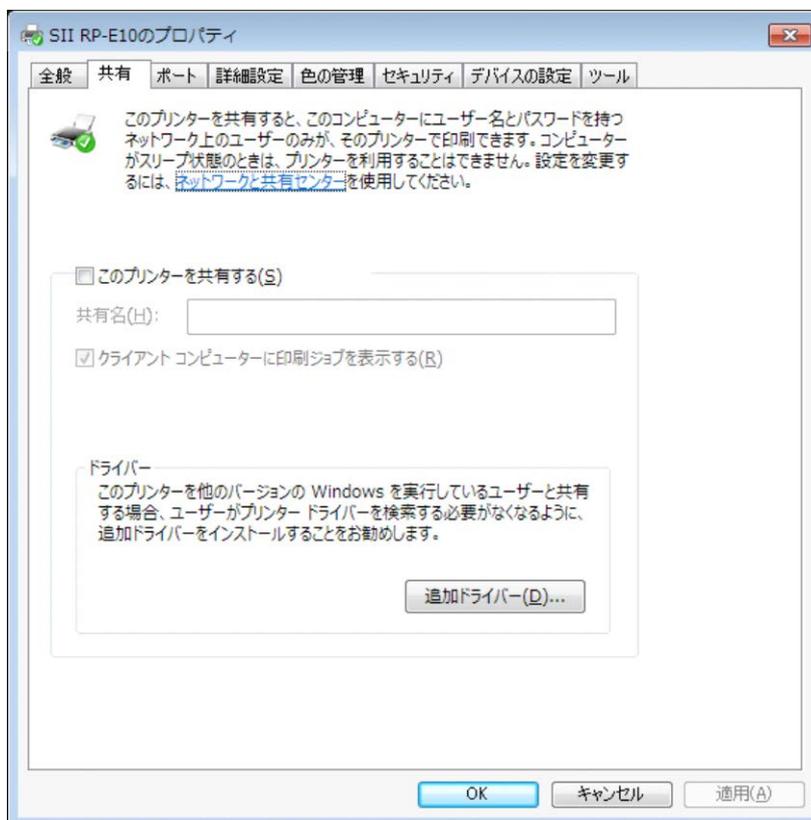


図 4-2 [共有]画面

項目	説明
このプリンターを共有する(S)	チェックを入れ、[共有名(H)]に任意の共有名を入力するとプリンタードライバーをネットワーク上の別のコンピューターから利用することができます。
共有名(H)	プリンターの共有名を入力します。
追加ドライバー(D)...	この機能はサポートしていません。

注意

- ◆ 共有プリンターでの使用は、ネットワークの利用状況等により正常に動作しないことがあります。

4.4 ポート

出力ポートを設定します。

4.4.1 ポートの設定

[ポート]タブを選択し、以下の画面を表示します。

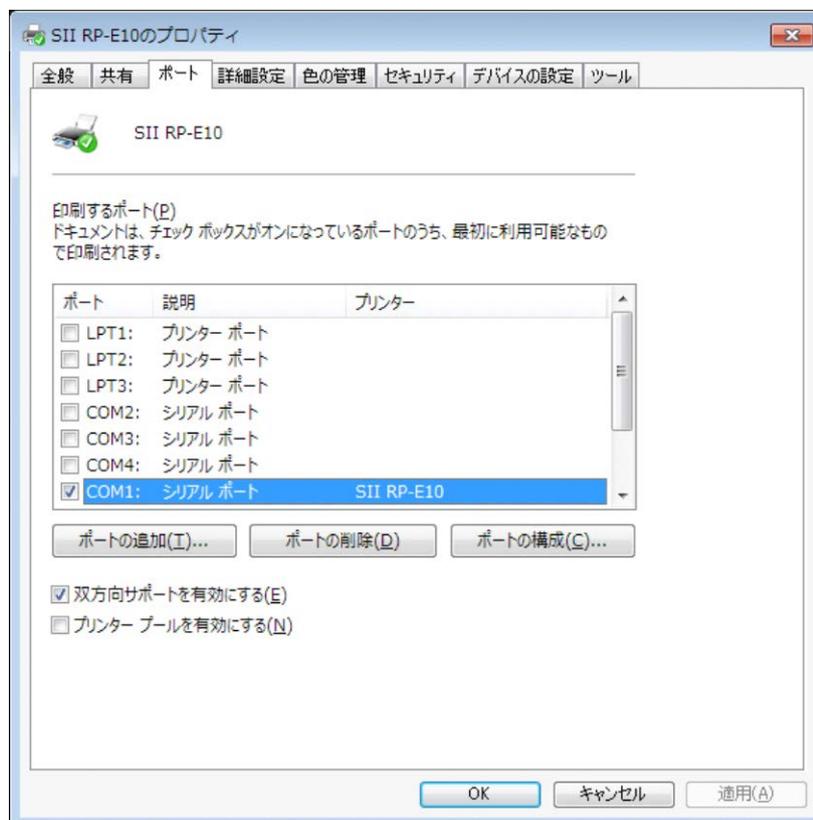


図 4-3 [ポート]画面

項目	説明
ポートの追加(T)...	ユーザーがポートを追加できます。
ポートの削除(D)	ユーザーが追加したポートを削除できます。
ポートの構成(C)...	シリアル接続時の通信について設定します。※1、※2、※3、※4、※5
双方向サポートを有効にする(E)	プリンターから情報を取得するにはチェックを入れます。※6
プリンタープールを有効にする(N)	有効にすることで複数のポートのチェックボックスにチェックを入れることができるようになり、複数のポートに接続しているプリンターで同じ内容を印刷することができます。※7

※1: 設定にはコンピューターの管理者権限が必要です。

※2: [COMx:シリアルポート]を選択し、[ポートの構成(C)]ボタンをクリックして表示される[通信設定]画面からプリンター側と同一の通信設定に合わせてください。

※3: 通信ライブラリを利用する場合、[フロー制御]設定で「ハードウェア」を選択して使用してください。

※4: [データ ビット]は「8」で使用してください。

※5: Windows Server 2019、2016及び2012の場合は、[ポートの構成(C)]ボタンでは通信設定を行えません。コンピューターの「デバイスマネージャー」の「ポート(COMとLPT)」で通信設定を行ってください。

※6: チェックを外した場合、ツール及び通信ライブラリは使用できなくなります。

※7: 通信ライブラリを利用する場合、必ずチェックを外してください。

4.5 ツール

プリンタードライバーのバージョン情報と各種ツールの起動ボタンを表示します。

各種ツールの詳細については『5章 ツール』を参照してください。

5章 ツール

5.1 概要

本章ではプリンタードライバーから起動できる各種ツールについて説明します。

各種ツールは[プロパティ]ダイアログ上の[ツール]画面から起動します。起動後のツール画面上部のツールパネルからも他のツールへ移動できます。

起動できる各種ツールは以下の通りです。

- ・ プリンター情報 : プリンターの各種情報を表示します。
- ・ メモリスイッチ : メモリスイッチを設定します。
- ・ ログ : プリンタードライバーのログ出力を設定します。
- ・ テスト印刷 : 任意の内容でテスト印刷を実行します。
- ・ NVイメージ : ログまたはウォーターマークで使用するイメージデータの編集、登録、または登録されているNVイメージを管理します。
- ・ コードページ : ユーザーが登録できるフォントデータを編集、登録、または登録されているコードページを管理します。
- ・ その他 : プリンタードライバーの設定内容をファイルにエクスポート、またはエクスポートしたファイルをインポートします。

注意

- ◆ 以下の機能を利用するにはコンピューターの管理者権限が必要です。
 - ・ メモリスイッチのプリンターへ登録
 - ・ ログのログ出力
 - ・ NVイメージのプリンターへ登録
 - ・ NVイメージの削除
 - ・ コードページのプリンターへ登録
 - ・ コードページの削除
- ◆ 『4.4 ポート』の[双方向サポートを有効にする(E)]が「オフ」になっている場合、各ツールは起動できません。
- ◆ ツール起動中は、[プロパティ]ダイアログは操作できません。

5.1.1 [ツール]の表示

[ツール]タブを選択し、以下の画面を表示します。

[ツール]画面には、バージョン情報及び各種ツールを起動するためのボタンを表示します。



図 5-1 [ツール]画面

項目	説明
バージョン情報	プリンタードライバーのファイル情報を表示します。
ツール起動ボタン	各ボタンをクリックすると、それぞれのツールが起動します。

5.2 プリンター情報

プリンターの各種情報を表示します。

5.2.1 プリンター情報の表示

ツールパネルの[プリンター情報]を選択し、以下の画面を表示します。

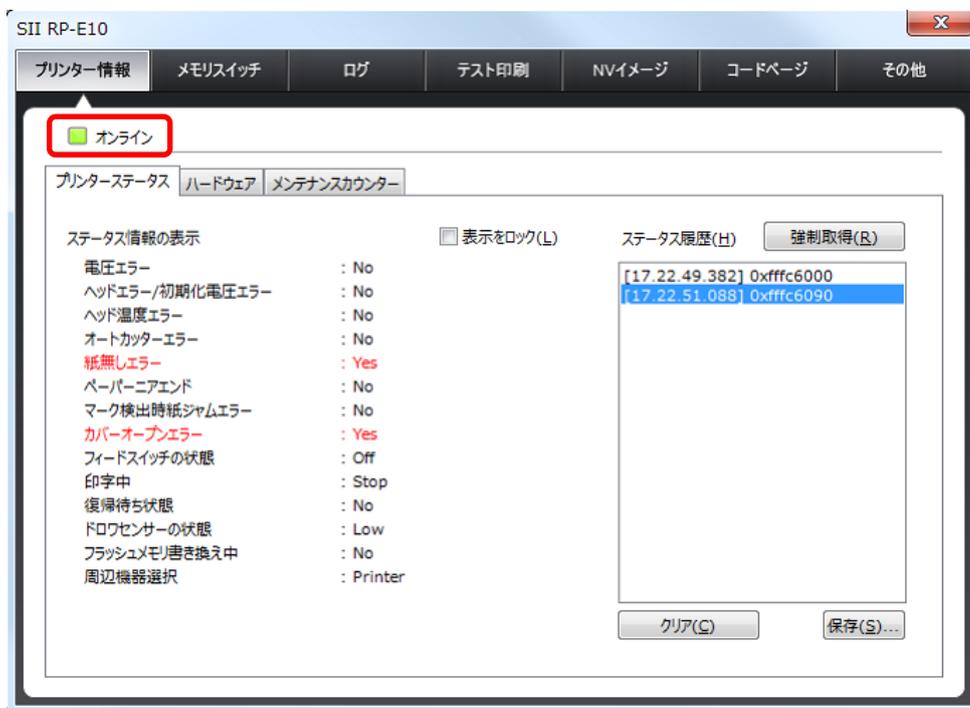


図 5-2 [プリンター情報]画面

項目	説明
接続状態	プリンターとの接続状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none">・オンライン(インジケータ:緑色)・オフライン(インジケータ:灰色)

5.2.2 プリンターステータスの表示

[プリンター情報]画面から[プリンターステータス]タブを選択し、以下の画面を表示します。



図 5-3 [プリンターステータス]画面

項目	説明
ステータス情報の表示	プリンターステータス情報を表示します。 ^{※1} [表示をロック(L)]が「オン」の場合、[ステータス履歴(H)]で選択されているステータス情報を表示します。
表示をロック(L)	[ステータス履歴(H)]の選択をロックします。 ^{※2} 「オフ」の場合、[ステータス履歴(H)]の最新を常に選択状態とします。この際、プリンターステータスが増えるたびに[ステータス履歴(H)]は選択が最新に変更され、自動的にスクロールします。 「オン」の場合、ユーザーが[ステータス履歴(H)]内で指定したプリンターステータスが増えるたびに[ステータス履歴(H)]の選択は変更されず、自動的にスクロールされません。 また、表示をロック中に選択中の行が削除された場合は、削除されるたびにその下の行が選択状態になり、[ステータス情報の表示]に表示されます。
ステータス履歴(H)	プリンターステータスの応答履歴をリスト表示します。 ・ 応答時間: [hh.mm.ss.sss] (時間: 00~23、分: 00~59、秒: 00.000~59.999) ・ 応答内容: プリンターステータスを16進数(32ビット)で表示 ^{※3、※4}
クリア(C)	[ステータス履歴(H)]に表示した情報を消去し、履歴を初期化します。 ^{※2}
強制取得(R)	プリンターステータスを取得するプリンターコマンドを発行し強制的にプリンターからプリンターステータスを取得します。 ^{※5}
保存(S)...	[名前を付けて保存]ダイアログで保存先とファイル名を指定し、[ステータス履歴(H)]の内容をテキストファイル(*.csv)として保存します。 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。 ^{※2、※6}

- ※1: プリンターから情報が取得できなかった場合、状態を表示する部分が「 - 」で表示されます。
- ※2: [ステータス履歴(H)]が空白の場合、操作できません。
- ※3: 詳細は『5.2.3 ステータスの一覧』を参照してください。
- ※4: [ステータス履歴(H)]内に表示可能な履歴の数は最大100件です。それ以降は古いものから削除されます。
- ※5: 取得したプリンターステータスが取得済みの最新のプリンターステータスと同じ場合、表示は更新されません。
- ※6: 保存されるプリンターステータス履歴は[保存(S)...]ボタンをクリックした時点での[ステータス履歴(H)]の内容です。この時点より後のプリンターステータスの応答は保存するファイルに反映されません。

5.2.3 ステータスの一覧

[ステータス履歴(H)]で表示する 16 進数(32 ビット)データ形式での応答内容の対応ビットは以下の通りです。

ステータス	対応ビット	内容
電圧エラー	0x00000000	無し
	0x00000001	有り
ヘッドエラー/初期化電圧エラー	0x00000000	無し
	0x00000002	有り
ヘッド温度エラー	0x00000000	無し
	0x00000004	有り
オートカッターエラー	0x00000000	無し
	0x00000008	有り
紙無しエラー	0x00000000	無し
	0x00000010	有り
ペーパーニアエンド	0x00000000	無し
	0x00000020	有り
マーク検出時紙ジャムエラー	0x00000000	無し
	0x00000040	有り
カバーオープンエラー	0x00000000	無し
	0x00000080	有り
フィードスイッチの状態	0x00000000	Off
	0x00000100	On
印字中	0x00000000	停止
	0x00000400	印字
復帰待ち状態	0x00000000	無し
	0x00000800	有り
ドロワセンサーの状態	0x00000000	Low
	0x00008000	High
フラッシュメモリ書き換え中	0x00000000	無し
	0x00010000	有り
周辺機器選択	0x00000000	プリンター
	0x00020000	その他

取得できる応答値は上記の値を足し合わせた値です。
ただし、未接続または通信エラーの場合、全ビットが 0 となります。

注意

- ◆ 記載のない応答内容は予約です。
- ◆ 未接続または通信エラーの場合、それ以外のステータスの内容は無視されます。

5.2.4 ステータス履歴の保存

以下にステータス履歴をテキストファイルとして保存する手順について説明します。

1. [プリンターステータス]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.2.5 ハードウェアの表示

[プリンター情報]画面から[ハードウェア]タブを選択し、以下の画面を表示します。



図 5-4 [ハードウェア]画面

項目	説明
ハードウェア	プリンター本体から取得した下記ハードウェア情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none">・ファームウェアバージョン(メイン)・ファームウェアバージョン(ブート)・モデル名
再読込(R)	プリンターからハードウェア情報を再取得します。

5.2.6 メンテナンスカウンターの表示

[プリンター情報]画面から[メンテナンスカウンター]タブを選択し、以下の画面を表示します。



図 5-5 [メンテナンスカウンター]画面

項目	説明
メンテナンスカウンター	<p>メンテナンスカウンターの値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙送りドットライン数(単位: dot) ・サーマルヘッド通電回数(単位: dot) ・オートカッター駆動回数(単位: Times) ・紙送りドットライン数(積算)(単位: dot) ・サーマルヘッド通電回数(積算)(単位: dot) ・オートカッター駆動回数(積算)(単位: Times)
再読込(R)	プリンターからメンテナンスカウンターの値を再取得します。

5.3 メモリスイッチ

メモリスイッチを設定します。

5.3.1 メモリスイッチの設定

ツールパネルの[メモリスイッチ]を選択し、以下の画面を表示します。



図 5-6 [メモリスイッチ]画面

項目	説明
工場出荷時設定(D)	工場出荷時の設定に戻します。現在編集中の設定内容は失われます。 ※1、※2
[MS]タブ	メモリスイッチの表示項目を切り替えます。
項目	メモリスイッチ機能の項目名を表示します。
値	プリンターまたはメモリスイッチファイルから取得したメモリスイッチの値を表示します。 値をダブルクリックして編集モードにし、ドロップダウンから値を選択するかエディットボックスに値を入力します。※2、※3 読み込んだ値を変更した場合、赤字で表示します。 メモリスイッチ起動時にプリンターから情報が取得できなかった場合、「 --- 」が表示され、編集はできません。
開く(O)...	保存したメモリスイッチファイル(*.sms)を読み込んで、設定を表示します。※1
保存(S)...	[名前を付けて保存]ダイアログで保存先とファイル名を指定し、現在の画面上の設定内容をメモリスイッチファイル(*.sms)として保存します。※1 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。
再読込(E)	プリンターの現在の設定内容を読み込んで、設定を表示します。 現在編集中の設定内容は失われます。

項目	説明
印刷(P)	プリンターの現在の設定内容を印刷します。※1
プリンターへ登録(R)	表示している内容をプリンターに送信し、プリンターの設定を変更します。※1、※4

※1: プリンターから値を取得していない場合、操作できません。

※2: [プリンターへ登録(R)]をクリックするまでは、設定は反映されません。

※3: 範囲外の値は、自動的に範囲内に丸め込みされます。

※4: プリンターから取得した値から変更がない場合、操作できません。

5.3.2 メモリスイッチ設定のプリンター登録

以下にメモリスイッチの設定をプリンターに登録する手順について説明します。

設定を変更する場合の登録手順

1. [MS]タブを切り替えて、設定を変更するメモリスイッチの項目を表示します。
2. 設定を変更するメモリスイッチの値を選択、または入力します。
3. [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

メモリスイッチファイルから読み込む場合の登録手順

1. [メモリスイッチ]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから、設定内容が保存されているメモリスイッチファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

工場出荷時の設定内容に戻す場合の登録手順

1. [工場出荷時設定(D)]ボタンをクリックします。
2. 確認画面が表示されるので[はい]ボタンをクリックします。
3. [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

5.3.3 メモリスイッチ設定内容の保存

以下にメモリスイッチの設定内容をメモリスイッチファイルとして保存する手順について説明します。

1. [メモリスイッチ]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでメモリスイッチファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.4 ログ

プリンタードライバーのログ出力を設定します。

注意

- ◆ログ出力を有効にした場合、プリンタードライバーの動作が重くなる恐れがありますので不要なログ出力は避けてください。
- ◆ログファイルを開いた状態でのログの出力内容については保証しません。

5.4.1 ログ出力の設定

ツールパネルの[ログ]を選択し、以下の画面を表示します。



図 5-7 [ログ]画面

項目	説明（ “ ”:初期値 ）
ログ出力(L)	<p>ログ出力を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・無効 <p>「有効」を選択した場合、保存期間を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日分 ・3日分 ・10日分 ・30日分 ・90日分 <p>保存期間を過ぎたログは、ログの出力時に消去されます。^{※1} ログファイル(印刷ジョブ情報を除く)の最大サイズは32MBです。^{※2}</p>
出力内容	ログ出力の内容について設定します。
エラー(E)	<p>ログにエラーを出力するか選択します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・無効
警告(W)	<p>ログに警告を出力するか選択します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・無効
情報(I)	<p>ログに情報を出力するか選択します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・無効
印刷ジョブ情報(D)	<p>印刷ジョブ情報を出力するか選択します。^{※3、※4}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・無効 <p>「有効」の場合、印刷時にプリンターに送信したデータが、ジョブごとにファイルに保存されます。</p>
ログ出力先	ログの出力先を設定します。 ^{※3、※5}
ログ(G)	<p>ログのファイル名、または出力先を入力するか、[ログ(G)]の[参照(B)...]ボタンから[名前を付けて保存]ダイアログで出力先とファイル名を指定し、ログファイル(*.log)として保存します。^{※6}</p>
参照(B)...	<p>ログを出力する場所とファイル名を指定します。^{※6、※7、※8}</p> <p>指定した内容は[ログ(G)]に表示されます。</p>
印刷ジョブ情報(O)	<p>印刷ジョブ情報を保存するフォルダーの作成場所を入力するか、[印刷ジョブ情報(O)]の[参照(R)...]ボタンから[フォルダーの参照]ダイアログで出力先を指定します。^{※9}</p> <p>印刷ジョブ情報は1ジョブ1ファイル、ファイル名はファイルが作成された時間<hhmm_ss(sss)>(秒は少数点以下3桁までの5桁)で、印刷ジョブファイル(*.prn)として保存されます。</p> <p>保存された印刷ジョブ情報は、日付ごとのフォルダー(フォルダー名<yyyymmdd>)に保存されます。</p>
参照(R)...	<p>印刷ジョブ情報を保存するフォルダーの作成場所を指定します。</p> <p>指定した内容は[印刷ジョブ情報(O)]に表示されます。^{※7、※8、※9}</p>
適用(A)	ログの出力内容や出力先を確定し、ログ出力を開始します。

5.5 テスト印刷

任意の内容でテスト印刷を実行します。

5.5.1 テスト印刷の設定

ツールパネルの[テスト印刷]を選択し、以下の画面を表示します。

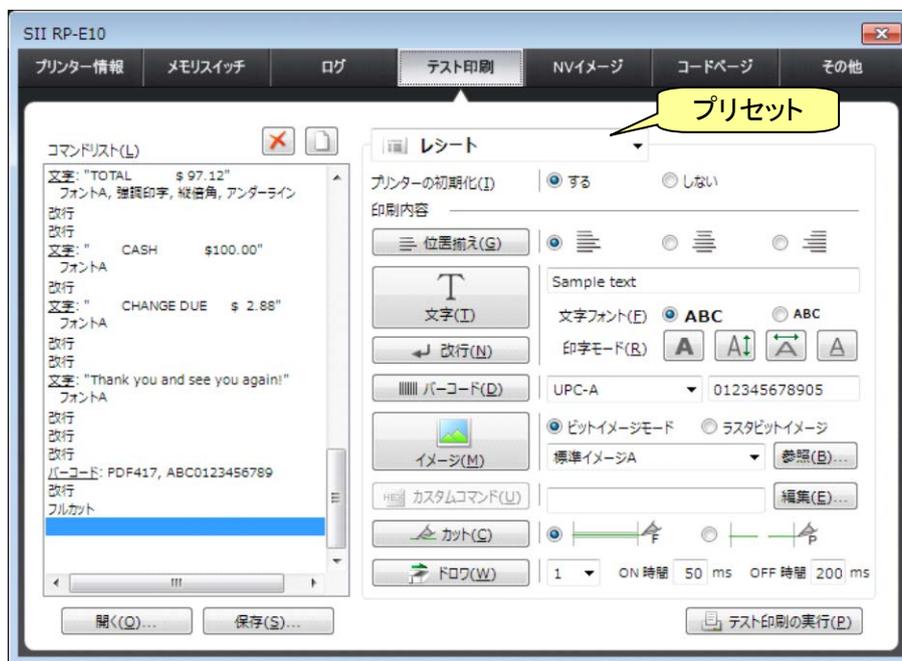


図 5-8 [テスト印刷]画面

項目	説明（“___”: 初期値）
コマンドリスト(L)	[プリセット]から設定した内容やテスト印刷ファイルの内容をリストとして表示します。 [コマンドリスト(L)]は最大128行追加できます。 [コマンドリスト(L)]に追加されたテスト印刷コマンドは[テスト印刷の実行(P)]時にプリンターに送られます。※1
 削除	[コマンドリスト(L)]で選択中のテスト印刷コマンドを[コマンドリスト(L)]から削除します。※2 [コマンドリスト(L)]で末尾の空白行を選択している場合、空白行のすぐ上の行のテスト印刷コマンドを削除します。
 新規作成	[コマンドリスト(L)]内のテスト印刷コマンドをすべてクリアします。※2
開く(O)...	保存したテスト印刷ファイル(*.stp)を指定して開き、その内容を[コマンドリスト(L)]に表示します。
保存(S)...	[コマンドリスト(L)]のテスト印刷コマンドをテスト印刷ファイル(*.stp)として保存します。 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。

項目	説明（ “ ”: 初期値 ）
プリセット	<p>予め登録されているテスト印刷内容を[コマンドリスト(L)]に表示します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>レシート</u> ・ <u>パターン</u> ・ <u>バーコード</u> ・ <u>カスタム</u>
プリンターの初期化(I)	<p>テスト印刷の開始時に、プリンターコマンド「プリンターの初期化」による初期化を行うか、初期化を行わないかを選択します。^{※4}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>する</u> ・ <u>しない</u>
印刷内容	<p>テスト印刷の内容を設定します。</p>
位置揃え(G)	<p>文字、バーコード及びイメージを印刷する位置を[コマンドリスト(L)]に追加します。 位置揃えの設定は、次に位置揃えのテスト印刷コマンドが挿入されるまで有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・  <u>左揃え</u> ・  中央揃え ・  右揃え
文字(T)	<p>[文字フォント(F)]や[印字モード(R)]とともに、[文字データ]に入力された文字を一括して[コマンドリスト(L)]に追加します。^{※5、※6}</p>
文字データ	<p>テスト印刷する文字列を入力します。 入力可能文字数は最大64文字です。</p>
文字フォント(F)	<p>フォントのサイズを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ABC</u> フォントA(24x12フォント) ・ <u>ABC</u> フォントB(16x8フォント)
印字モード(R)	<p>印字モードを設定します。 各ボタンは、1回クリックするごとに「オン」「オフ」の設定が切り替えられます。 「オフ」のときは、テスト印刷コマンド追加時に[コマンドリスト(L)]へ表示しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・  強調印字 ・  縦倍角 ・  横倍角 ・  アンダーライン
改行(N)	<p>[改行(N)]のテスト印刷コマンドを、[コマンドリスト(L)]に追加します。 [文字データ]に文字が入力されている場合、[文字データ]、[文字フォント(F)]、[印字モード(R)]のテスト印刷コマンドの後に[改行]のテスト印刷コマンドを追加します。</p>

項目	説明（ “ ”: 初期値 ）
バーコード(D)	バーコードの種類と、[バーコードデータ]に入力されたデータを一括して[コマンドリスト(L)]に追加します。※7
バーコード種類	テスト印刷するバーコードの種類を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>UPC-A</u> ・ UPC-E ・ JAN13(EAN) ・ JAN8(EAN) ・ CODE39 ・ ITF ・ CODABAR ・ CODE128 ・ CODE93 ・ JAN13(アドオン 2) ・ JAN13(アドオン 5) ・ QR Code Model-2 ・ PDF417
バーコードデータ	バーコード印刷するデータを入力します。※8 入力可能文字数は最大64文字です。※9
イメージ(M)	[印刷方式]、[イメージ選択]の設定を一括して[コマンドリスト(L)]に追加します。
印刷方式	イメージの印刷に使用するプリンターコマンドの種類を選択します。※10 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ビットイメージモード</u> ・ ラスタビットイメージ
イメージ選択	イメージの印刷に使用する画像データを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>標準イメージA</u> ・ 標準イメージB ・ ユーザー指定イメージ コンボボックスで「ユーザー指定イメージ」を選択した場合、自動的に[開く]ダイアログが開き、使用するイメージを指定できます。
参照(B)...	イメージの印刷に使用するユーザー指定イメージを[開く]ダイアログから指定します。イメージファイル(*.jpg、*.jpeg、*.bmp)が選択できます。 <p>※11</p>
カスタムコマンド(U)	[カスタムコマンドデータ]に入力されたプリンターコマンドを[コマンドリスト(L)]に追加します。※12
カスタムコマンドデータ	カスタムコマンドを表示します。 入力には[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
編集(E)...	バイナリエディターを使ってプリンターコマンドを16進数で入力します。 入力したプリンターコマンドは[カスタムコマンドデータ]に表示されます。 指定可能バイト数は最大64バイトです。 バイナリエディターについては『3.4.8 バイナリエディターの使用方法』を参照してください。
カット(C)	[カット種類]の設定を[コマンドリスト(L)]に追加します。
カット種類	カット方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・  <u>フルカット</u> ・  パーシャルカット

項目	説明（ “ ”: 初期値 ）
ドロウ(W)	ドロウのテスト印刷コマンドを[コマンドリスト(L)]に追加します。
駆動ドロウ	駆動するドロウを選択します。 ・ <u>1</u> (ドロウ1を駆動) ・ <u>2</u> (ドロウ2を駆動)
ON時間 OFF時間	パルスのON時間、OFF時間を偶数値で入力します。(単位:ms) ^{※13} ・ <u>2</u> ~ 510 (ON時間: <u>50</u> 、OFF時間: <u>200</u>)
テスト印刷の実行(P)	[コマンドリスト(L)]上の全テスト印刷コマンドをプリンターに送信します。

- ※1: [コマンドリスト(L)]内の文字、バーコード、カスタムコマンドのテスト印刷コマンドをダブルクリックまたはスペースキーで選択すると、文字列、データが各項目のエディットボックスに入ります。
- ※2: [コマンドリスト(L)]が空白の場合、操作できません。
- ※3: 「レシート」「パターン」「バーコード」を選択中に[コマンドリスト(L)]へのテスト印刷コマンドの追加、削除及び保存されたテスト印刷ファイル(*.stp)が読み込まれた場合、[プリセット]は「カスタム」に変更されます。
- ※4: 「する」を選択した場合でも[コマンドリスト(L)]には表示されません。[テスト印刷の実行(P)]ボタン、[保存(S)...]ボタンをクリックした時の[プリンターの初期化(I)]の選択状態に従って、印刷データやテスト印刷ファイルの保存内容に反映されます。
- ※5: [文字データ]が空白の場合、操作できません。
- ※6: スタンダードモード選択時(通常時)は、1行分の行バッファが文字データであふれる(1行フル印字)場合か、プリンターコマンド「印字改行」等で印字条件が成立した場合、印刷を実行します。上記条件を満たさないデータをプリンターに送信しても印刷は実行されません。
- ※7: [バーコードデータ]が空白の場合、操作できません。
- ※8: 入力するデータについては、技術説明書のプリンターコマンド「バーコードの印字」、「QRCodeの印字」を参照してください。
- ※9: プリンターの仕様に合わないデータを入力すると正常に印刷できない場合がありますので適切なデータを入力してください。プリンターの仕様については技術説明書を参照してください。[バーコードデータ]はバーコードフォントで使用するデータの入力方法とは異なります。
- ※10: [イメージ選択]で「標準イメージB」を選択した場合、[印刷方式]は無視されます。
- ※11: [参照(B)...]ボタンをクリックし、イメージファイルを選択した場合、[イメージ選択]は「ユーザー指定イメージ」に変更されます。
- ※12: [カスタムコマンドデータ]が空白の場合、操作できません。
- ※13: 奇数値を入力した場合、実行時に範囲内の偶数値に丸め込みます。
[OFF 時間]は回路保護のため必ず[ON 時間]の4倍以上の時間を設定してください。

5.5.2 テスト印刷の実行

以下にテスト印刷の実行手順について説明します。

[プリセット]を利用する場合の印刷手順

1. テスト印刷の内容を[プリセット]から設定します。
2. [テスト印刷の実行(P)]ボタンをクリックします。

テスト印刷コマンドを指定する場合の印刷手順(文字の印刷)

1.  [新規作成]ボタンをクリックします。
2. [プリンターの初期化(I)]で初期化を行うか、初期化を行わないかを選択します。
3. ラジオボタンで左揃え、中央揃え、右揃えのいずれかの印刷位置を選択し[位置揃え(G)]ボタンをクリックします。
4. [文字データ]に印刷する文字を入力します。
5. [文字フォント(F)]、[印字モード(R)]を選択し[改行(N)]ボタンをクリックします。

6. 必要に応じて[バーコード(D)]や[カスタムコマンド]等のテスト印刷コマンドを[コマンドリスト(L)]に追加します。
7. 削除したいテスト印刷コマンド(テスト印刷コマンドの名称と設定値)がある場合、[コマンドリスト(L)]で対象のテスト印刷コマンド行を選択し  [削除]ボタンをクリックします。
8. [テスト印刷の実行(P)]ボタンをクリックします。

テスト印刷ファイルから読み込む場合の印刷手順

1. [テスト印刷]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログからテスト印刷コマンドが保存されているテスト印刷ファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. [テスト印刷の実行(P)]ボタンをクリックします。

5.5.3 テスト印刷ファイルの保存

以下にテスト印刷情報をテスト印刷ファイルとして保存する手順について説明します。

1. [テスト印刷]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでテスト印刷ファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.6 NVイメージ

ロゴまたはウォーターマークで使用するイメージデータの編集、登録、または登録されている NV イメージを管理します。

参考

- NVイメージとは、プリンターのNVメモリ(不揮発性メモリ)に登録されたイメージデータのことで、プリンターの電源を切ってもこのデータは保持されます。

5.6.1 NVイメージの設定

ツールパネルの[NV イメージ]を選択し、以下の画面を表示します。



図 5-9 [NVイメージ]画面

項目	説明
プレビュー	[イメージデータリスト(I)]で選択中のイメージデータを表示します。
前へ	[プレビュー]に表示するイメージデータを1つ前の画像に切り替えます。※1
次へ	[プレビュー]に表示するイメージデータを次の画像に切り替えます。※1
ファイル名	[プレビュー]に表示中のイメージデータのファイル名を表示します。
開く(O)...	保存されているイメージデータファイル(*.snv)から、設定と画像を読み込んで表示します。
保存(S)...	[イメージデータリスト(I)]に追加されたイメージデータの設定と画像をイメージデータファイル(*.snv)として保存します。※2 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。

項目	説明
メモリ残量	メモリの残量を表示します。 メモリを最適化します。
最適化前	最適化前のメモリ残量を表示します。
最適化後	最適化後のメモリ残量を表示します。
最適化(D)	プリンター本体メモリのユーザー領域を再配置して空きメモリ領域を確保します。

※1: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータが2つ以上ある場合のみ操作できます。

※2: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータがない場合、操作できません。

5.6.2 イメージ登録の設定

[NV イメージ]画面から[イメージ登録]タブを選択し、以下の画面を表示します。



図 5-10 [イメージ登録]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
イメージデータリスト(I)	追加したイメージデータの一覧を表示します。 [イメージデータリスト(I)]に追加できるイメージデータは最大20個です。 NVイメージ起動時は前回終了時のものを復元します。
ファイル名	プリンターへ登録予定のイメージデータの管理用名称です。※1 [イメージデータリスト(I)]にイメージデータが追加される際に、自動的に名前が割り振られます。
キーコード	プリンターへイメージデータを登録する際に使用するイメージデータの番号です。 プリンター本体に登録のないキーコードが自動的に割り当てられます。割り当てられたキーコードを変更する場合、[イメージデータリスト(I)]でイメージデータを選択し、エディットボックスにキーコードを数字で入力します。 ・ 00 ~ 99 (自動的に割り振られたキーコード)※2
サイズ	イメージデータのデータサイズを表示します。※1

項目	説明（“ ”: 初期値）
 イメージデータを 開く...	イメージデータのファイルを指定して[イメージデータリスト(I)]に追加します。 イメージファイル(*.jpg, *.jpeg, *.bmp)が選択できます。※3
 イメージデータの 複製	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータを複製し、別のファイル名を付けて[イメージデータリスト(I)]に追加します。※4
 イメージデータの 削除	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータを[イメージデータリスト(I)]から削除します。※4
 イメージデータの 印刷	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータを印刷します。※4
プリンターへ登録(R)	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータをプリンターへ登録します。 イメージデータの登録後は[メモリ残量]も更新します。 登録しようとしているイメージデータのキーコードがすでに登録済みの場合、上書き確認のメッセージが表示されます。※4
NVイメージリスト(L)	プリンターに登録済みのNVイメージの一覧を表示します。※5
キーコード	プリンターに登録済みのNVイメージのキーコードを表示します。
 再読込	プリンターに登録済みのNVイメージとメモリ残量を再取得します。
 削除	[NVイメージリスト(L)]で選択中のすべてのNVイメージをプリンターから削除します。※6 イメージの削除後は[メモリ残量]も更新されます。
 印刷	[NVイメージリスト(L)]で選択中のすべてのNVイメージを印刷します。※6

※1: 編集はできません。

※2: イメージデータを削除した場合、そのイメージデータのキーコードは欠番になり自動的に割り振られません。ただし、キーコードが99まで使用された場合は、欠番のうち値が小さいものから順に番号が割り振られます。

※3: 指定したイメージデータのサイズは、読み込み時に80mm用紙(72mm印字幅)にフィットするように変更されます。また、カラーの画像を指定した場合、読み込み時にモノクロ画像に変換されます。

※4: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータがない場合、操作できません。

※5: NVイメージの情報がプリンターから取得できなかった場合、リストの1行目に「 - 」が表示されます。

※6: [NVイメージリスト(L)]にNVイメージがない場合、操作できません。

5.6.3 イメージ編集の設定

[NV イメージ]画面から[イメージ編集]タブを選択し、以下の画面を表示します。



図 5-11 [イメージ編集]画面

項目	説明 ("___": 初期値)
サイズ変更(E)	選択中のイメージデータを拡大・縮小します。※1
80mm用紙にフィット	80mm用紙幅(72mm印字幅)にフィットするようイメージデータのサイズを自動的に変更します。
縦横比を固定	縦横比を固定してイメージデータのサイズを変更します。
横 縦	スライダーコントロールでサイズを変更します。※2、※3 ・ 元画像の10 ~ 300% (dotの範囲は元画像のサイズにより異なります。 縦は最大8インチ(1624dot)まで指定できます。)
% dot	選択中のイメージデータの縮尺率(%), 及びdotでの換算値を表示します。
回転(R)	選択された方向及び角度でイメージデータを回転させます。※1 ・ <u>なし</u> ・ 右に90度 ・ 180度 ・ 左に90度 [80mm用紙にフィット]が「オン」のときに現在の角度からイメージを90度回転させた場合、[80mm用紙にフィット]は一度「オフ」に変更されます。
ディザリング(H)	ディザリングのパターンを選択します。※1 ・ 2x2 ・ <u>4x4</u> ・ 6x6 ・ 8x8 ・ 誤差拡散

項目	説明（ “ ”:初期値 ）
明るさ(L)	イメージデータの明るさを設定します。 ^{※1、※3} ・ -100 ~ 100 (0)
コントラスト(C)	イメージデータのコントラストを設定します。 ^{※1、※3} ・ -100 ~ 100 (0) -100に設定した場合、画像全面が均一なパターンになります。
印刷(P)	編集中のイメージデータを印刷します。 ^{※1}

※1: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータがない場合、操作できません。

※2: [縦横比を固定]が「オン」の場合、[縦]のスライダーは操作できません。

※3: マウスでスライダーを操作した場合、マウスの左ボタンを離すタイミングで設定が[プレビュー]に反映されます。キーボードでのスライダー操作及び左右送りボタンで操作した場合、1回のクリックごとに設定が[プレビュー]に反映されます。

5.6.4 NVイメージの登録

以下に NV イメージを登録する手順について説明します。

イメージデータのファイルを指定する場合の登録手順

1. [イメージ登録]画面の  [イメージデータを開く...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから登録するイメージデータのファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. 追加されたイメージを[イメージデータリスト(I)]で選択します。
5. [イメージ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

イメージデータを複製する場合の登録手順

1. [イメージデータリスト(I)]で複製するイメージを選択し[イメージ登録]画面の  [イメージデータの複製]ボタンをクリックします。
2. 複製されたイメージデータを[イメージデータリスト(I)]で選択します。
3. [イメージ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

イメージデータファイルから設定と画像を読み込む場合の登録手順

1. [NVイメージ]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから、イメージデータの設定と画像が保存されているイメージデータファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)...]ボタンをクリックします。
4. 読み込まれたイメージデータを[イメージデータリスト(I)]で選択します。
5. [イメージ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

5.6.5 イメージデータの編集

以下にイメージデータを編集する手順について説明します。

1. [イメージ登録]画面の[イメージデータリスト(I)]から編集するイメージデータを選択します。
2. [イメージ編集]タブを選択します。
3. [イメージ編集]タブで、サイズやイメージデータの回転、明るさ等を変更します。

5.6.6 イメージデータの設定と画像の保存

以下にイメージデータ設定と画像をイメージデータファイルとして保存する手順について説明します。

1. [NVイメージ]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでイメージデータファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.7 コードページ

ユーザーが登録できるフォントデータを編集、登録、または登録されているコードページを管理します。

参考

- コードページ

コードページとは、各言語別にまとめられたデバイスフォントとして使用する文字セットです。本ツールではユーザーがコードページを新規に作成し、編集することもできます。

5.7.1 コードページの設定

ツールパネルの[コードページ]を選択し、以下の画面を表示します。



図 5-12 [コードページ]画面

項目	説明（“ ”:初期値）
全体ビュー	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを表示します。 マウスオーバーすると枠内のフォントの拡大イメージを表示します。 選択中の画像の[サイズ]及び[タイプ]により全体ビューの表示状態は変化します。
サイズ	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータのサイズを表示、選択します。 ・ <u>24x12</u> ・ 16x8 設定を変更すると[全体ビュー][キャラクタービュー][フォントデータリスト(F)]に変更が反映されます。
タイプ	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータのタイプを表示、選択します。 ・ <u>標準文字</u> ・ 国際文字 設定を変更すると[全体ビュー][フォントデータリスト(F)]に変更が反映されます。
 前へ	[全体ビュー]に表示するフォントデータを1つ前のページに切り替えます。 ※1
 次へ	[全体ビュー]に表示するフォントデータを次のページに切り替えます。※1
ファイル名	[全体ビュー]に表示中のフォントデータのファイル名を表示します。
開く(O)...	保存されているフォントデータファイル(*.scp)を読み込んで表示します。
保存(S)...	[フォントデータリスト(F)]に追加されたフォントデータの設定と画像を、フォントデータファイル(*.scp)として保存します。※2 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。
メモリ残量	メモリの残量を表示します。 メモリを最適化します。
最適化前	最適化前のメモリ残量を表示します。
最適化後	最適化後のメモリ残量を表示します。
最適化(D)	プリンター本体のメモリを再配置して空きメモリ領域を確保します。

※1: [フォントデータリスト(F)]にフォントデータが複数ある場合のみ操作できます。

※2: [フォントデータリスト(F)]にフォントデータがない場合、操作できません。

5.7.2 コードページ登録の設定

[コードページ]画面から[コードページ登録]タブを選択し、以下の画面を表示します。



図 5-13 [コードページ登録]画面

項目	説明（“ ”:初期値）
フォントデータリスト(F)	プロジェクトに追加したフォントデータの一覧を表示します。 [フォントデータリスト(F)]に追加できるフォントデータは最大60個です。 コードページツール起動時は前回終了時のものを復元します。 [フォントデータリスト(F)]ではフォントデータの複数選択はできません。
ファイル名	プリンターへ登録予定のフォントデータの管理用名称です。 ^{※1} [フォントデータリスト(F)]にフォントデータが追加される際に、自動的に名前が割り振られます。
サイズ	フォントデータのサイズを選択します。 ・ <u>24x12</u> ・ 16x8 設定を変更すると[全体ビュー][キャラクタービュー]に変更が反映されます。
タイプ	コードページのタイプを選択します。 ・ <u>標準文字</u> ・ 国際文字 設定を変更すると[全体ビュー]に変更が反映されます。

項目	説明（“ ”: 初期値）
フォント名/国名	<p>[タイプ]が「標準文字」の場合は、フォント名を半角英数記号で入力します。入力可能文字数は最大64文字です。 [タイプ]が「国際文字」の場合は、国名を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>アメリカ</u> ・ フランス ・ ドイツ ・ イギリス ・ デンマークI ・ スウェーデン ・ イタリア ・ スペインI ・ 日本 ・ ノルウェー ・ デンマークII ・ スペインII ・ ラテンアメリカ ・ アラビア
 フォントデータの 新規作成	フォントデータを新規に作成します。 全体ビューの表示がクリアされて白紙状態になり[フォントデータリスト(F)]に新しいファイル名のフォントデータが追加されます。
 フォントデータを 開く...	フォントデータのファイルを指定して[フォントデータリスト(F)]に追加します。 横16文字×縦14文字の*.bmp、*.binが選択できます。* ²
 フォントデータの 複製	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを複製し、別のファイル名を付けて[フォントデータリスト(F)]に追加します。* ³ サイズ、タイプ、フォント名/国名も複製されます。
 フォントデータの 削除	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを削除します。* ³
 フォントデータの 印刷	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを印刷します。* ³
プリンターへ登録(R)	[フォントデータリスト(F)]で選択中のコードページをプリンターへ登録します。* ⁴ 登録しようとしているコードページがすでに登録済みの場合、上書き確認のメッセージが表示されます。 コードページの登録後は[メモリ残量]も更新されます。
コードページリスト(L)	プリンターに登録済みのコードページを表示します。 「標準文字」の場合、サイズ、フォント名を表示し、「国際文字」の場合、サイズ、国名を表示します。
サイズ	プリンターに登録済みのコードページのサイズを表示します。
フォント名/国名	プリンターに登録済みのコードページのフォント名または国名を表示します。
 再読込	プリンターに登録されているコードページとメモリ残量を再取得します。

項目	説明（“ ”: 初期値）
 削除	[コードページリスト(L)]で選択中のコードページをプリンターから削除します。※5 コードページの削除後は[メモリ残量]も更新されます。
 印刷	[コードページリスト(L)]で選択中のコードページを印刷します。※5

※1: 編集はできません。

※2: 読み込んだフォントデータのファイルがバイナリ形式の場合、サイズ、タイプを判別して[フォントデータリスト(F)]に反映されます。

読み込んだフォントデータのファイルがBMPファイルでカラーまたはグレースケール画像の場合、読み込み時に白黒2値化されます。

読み込んだフォントデータが*.bin形式であり、かつフォントデータのサイズが異なる場合、不足する分はNullデータとして読み込み空白表示となり、サイズより大きい部分は読み捨てられ表示されません。

※3: [フォントデータリスト(F)]にフォントデータがない場合、操作できません。

※4: 国際文字を登録する場合、同じサイズの標準文字を先に登録してください。

※5: [コードページリスト(L)]にコードページがない場合、操作できません。

5.7.3 [キャラクタービュー]によるフォントデータの編集

[コードページ]画面から[キャラクタービュー]タブを選択し、以下の画面を表示します。

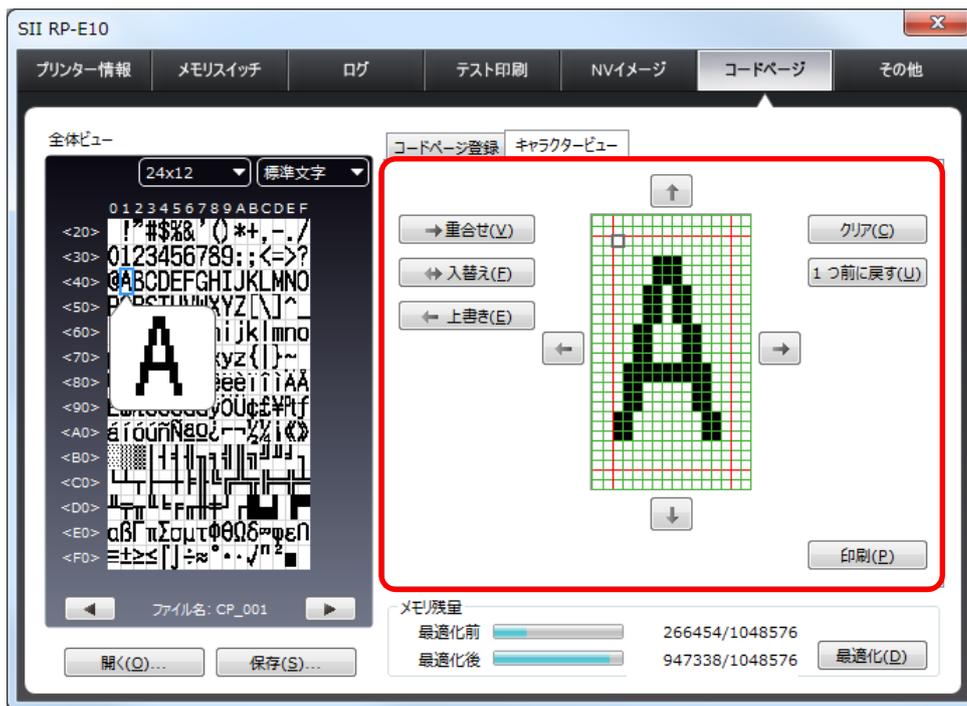


図 5-14 [キャラクタービュー]画面

項目	説明
キャラクタービュー	全体ビューに表示したフォントデータについて、文字ごとに編集できます。白塗りのマスの上でマウスクリック(左クリック)またはスペースキーを押下すると黒塗りになり、マウスクリックしたままドラッグすると線を引くことができます。黒塗りのマスの上で右クリックまたはDeleteキーを押下すると白塗りになり、右クリックのままドラッグすると連続して白塗りにすることができます。
重合せ(V)	[全体ビュー]で選択中の文字を[キャラクタービュー]に重ね合わせます。 ※1 すでに[キャラクタービュー]にデータが入っている場合でも画像は消去せずに画像を重ねます。
入替え(F)	[全体ビュー]で選択中の文字と[キャラクタービュー]にある文字を入れ替えます。 ※1、※2
上書き(E)	[キャラクタービュー]に表示している文字を、[全体ビュー]で選択中の文字に上書きします。 ※1、※2 ボタンをクリックすると[キャラクタービュー]内のイメージはクリアされます。
	[キャラクタービュー]に表示している文字を、1回クリックするごとに1ドットずつクリックされたボタンの方向へシフトさせます。 [キャラクタービュー]からはみ出したデータは保持されません。
クリア(C)	[キャラクタービュー]内の描画をすべてクリアし、白紙状態にします。 ※3
1つ前に戻す(U)	[キャラクタービュー]内の状態を1つ前の状態に戻します。 1回のみ有効です。
印刷(P)	[キャラクタービュー]の内容を印刷します。 ※3

※1: [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]にフォントデータがない場合や、国際文字の編集不可の場所を選択している場合、操作できません。

※2: [キャラクタービュー]内の赤線より外側は[全体ビュー]には反映されません。

※3: [キャラクタービュー]に何も描画されていない場合、操作できません。

5.7.4 コードページの登録

以下にコードページを登録する手順について説明します。

フォントデータを新規作成する場合の登録手順

1. [コードページ登録]画面の  [フォントデータの新規作成]ボタンをクリックします。
2. [フォントデータリスト(F)]に追加された新しいファイルの[サイズ]、[タイプ]、[フォント名/国名]を入力します。
3. [キャラクタービュー]タブを選択し、各アドレスの文字を編集します。
4. [コードページ登録]タブを選択し、[フォントデータリスト(F)]から文字を編集したファイルを選択します。
5. [コードページ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

フォントデータのファイルを指定する場合の登録手順

1.  [フォントデータを開く...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログで登録するフォントデータのファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)...]ボタンをクリックします。
4. [フォントデータリスト(F)]に追加されたファイルの[サイズ]、[タイプ]、[フォント名/国名]を入力します。(フォントデータのファイルがバイナリデータ場合、データ量でサイズとタイプが自動判別されます。)
5. [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]から追加されたファイルを選択します。
6. [コードページ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

フォントデータファイルの設定と画像を読み込む場合の登録手順

1. [コードページ]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから保存されているフォントデータファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)...]ボタンをクリックします。
4. [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]から読み込まれたファイルを選択します。
5. [コードページ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

5.7.5 フォントデータの編集

以下にフォントデータを編集する手順について説明します。

1. [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]から編集するフォントデータを選択します。
2. [キャラクタービュー]タブを選択します。
3. [全体ビュー]から編集する文字を選択します。
4. [重合せ(V)]ボタンをクリックします。
5. 選択した文字を[キャラクタービュー]で編集します。
6. 編集した文字を登録する位置を[全体ビュー]で設定します。
7. [上書き(E)]ボタンをクリックします。

5.7.6 フォントデータの設定と画像の保存

以下にコードページ設定と画像をフォントデータファイルとして保存する手順について説明します。

1. [コードページ]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでフォントデータファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.8 その他

プリンタードライバーの設定内容をファイルにエクスポート、またはエクスポートしたファイルをインポートします。

インポートまたはエクスポートされる設定内容は、プリンタードライバー設定情報(コントロール A フォント設定情報を含む)です。

5.8.1 その他の設定

ツールパネルの[その他]を選択し、以下の画面を表示します。



図 5-15 [その他]画面

項目	説明
インポートファイル(I)	保存したエクスポートファイル(*.sep)のファイル名を入力するか、または[インポートファイル(I)]の[参照(B)...]ボタンから[開く]ダイアログでインポートするファイルの保存先とファイル名を指定します。
参照(B)...	インポートするエクスポートファイルを、[開く]ダイアログから指定します。 指定した内容は[インポートファイル(I)]に表示されます。
インポート(M)	[インポートファイル(I)]に指定されているファイルからプリンタードライバー設定情報(コントロールAフォント設定情報を含む)をインポートします。※1

項目	説明
エクスポートファイル(E)	エクスポートファイルのファイル名を入力するか、または[エクスポートファイル(E)]の[参照(R)...]ボタンから[名前を付けて保存]ダイアログで保存先とファイル名を指定します。
参照(R)...	エクスポートファイルを保存する場所とファイル名を[名前をつけて保存]ダイアログから指定します。 指定した内容は[エクスポートファイル(E)]に表示されます。
エクスポート(X)	[エクスポートファイル(E)]に指定されているファイルにプリンタードライバ設定情報(コントロールAフォント設定情報を含む)をエクスポートします。

※1: 異なる言語環境でエクスポートされたエクスポートファイルをインポートすることはできません。また、インポートファイルの[用紙サイズ]がカスタム用紙である場合、反映されない場合があります。

5.8.2 設定のインポート

以下に設定をインポートする手順について説明します。

1. [インポートファイル(I)]の[参照(B)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログからインポートするファイルを選択します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. [インポート(M)]ボタンをクリックします。

5.8.3 設定のエクスポート

以下に設定をエクスポートする手順について説明します。

1. [エクスポートファイル]の[参照(R)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでエクスポートファイルの保存先とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。
4. [エクスポート(X)]ボタンをクリックします。

6章 用紙設定

6.1 概要

本章では用紙設定について説明します。

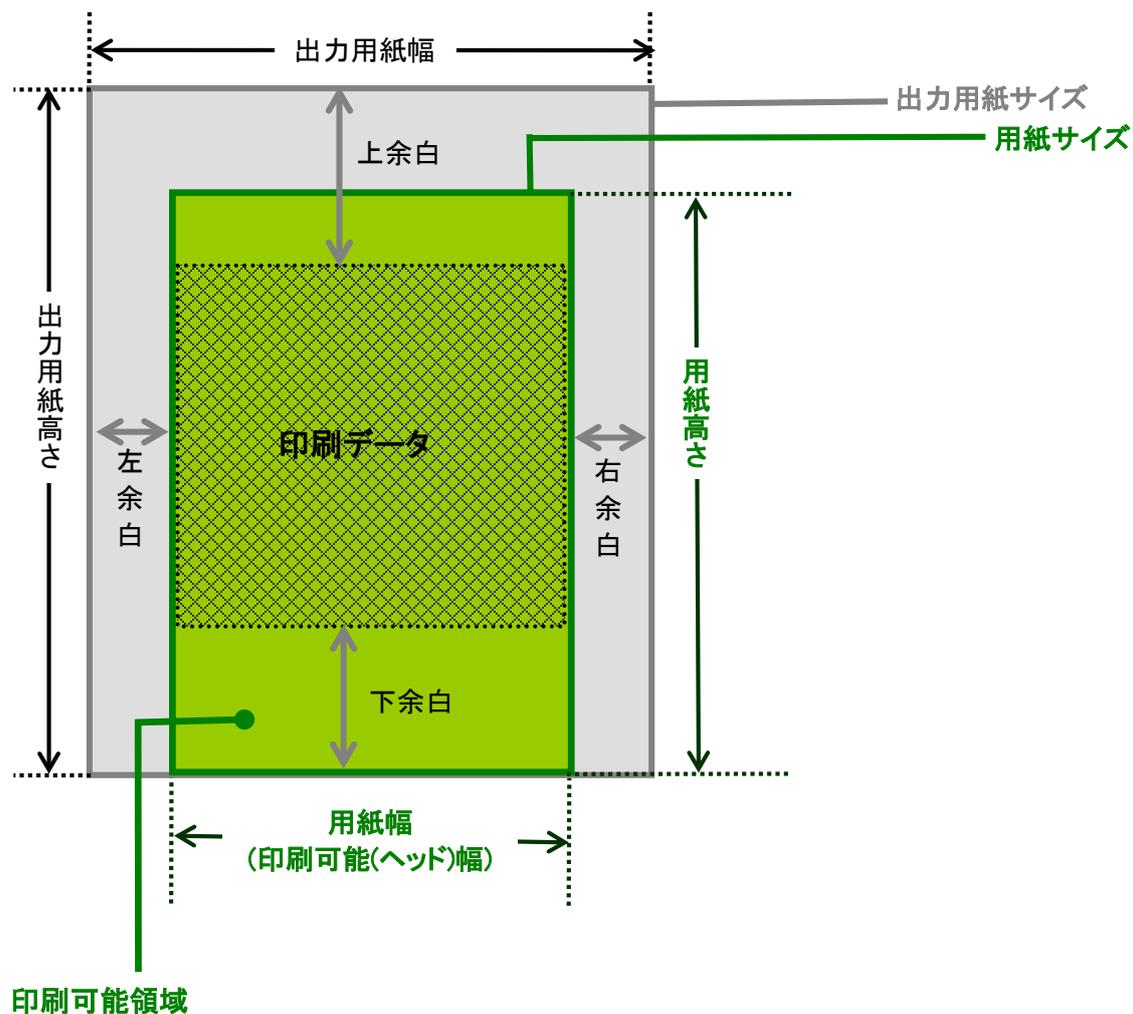
本章で使用する用語について以下に記載します。

用語	内容
高さ	紙排出方向を縦とした場合の縦方向のサイズ
幅	紙排出方向を縦とした場合の横方向のサイズ
出力用紙サイズ	実際に出力される用紙(ロール紙)サイズ
用紙サイズ	プリンタードライバー上で指定する、印刷可能領域のサイズ
標準用紙	インストール時に予め登録される用紙サイズ
カスタム用紙	ユーザーが新規に登録可能な用紙サイズ

注意

- ◆ カスタム用紙を登録する際に指定するサイズは、出力用紙サイズではなく用紙サイズ(印刷可能領域のサイズ)を指定します。
- ◆ A4、Letter以外の標準用紙の名称は「出力用紙の幅」となっていますが、用紙サイズと一致するものではありません。

以下に印刷イメージ図を示します。



※上記イメージは印刷イメージであり、カット位置は『3.4.6 用紙カット/マーク紙の設定』の [カット位置までフィード(F)] の設定により異なります。

6.2 用紙サイズ

利用する出力用紙の幅ごとに利用できる用紙サイズの組合せは以下の通りです。

出力用紙幅	用紙種類	用紙名称	用紙サイズ(範囲)	
			幅	高さ
58 mm	標準用紙	58 mm	54 mm	3276 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	-	25.6 mm ~ 54 mm	30 mm ~ 3276 mm
80 mm	標準用紙	58 mm	54 mm	3276 mm
		80 mm	72 mm	3276 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	-	25.6 mm ~ 72mm	30 mm ~ 3276 mm

用紙サイズは以下を指定してください。

- 用紙幅 = 出力用紙幅 - 左余白 - 右余白
- 用紙高さ = 出力用紙高さ - ヘッドカッター間の紙送り

余白とヘッドカッター間の紙送りについては、『6.3 余白』を参照してください。

6.3 余白

以下に余白サイズについて説明します。

以降の説明では、『3.2.1 レイアウトの設定』の[印刷の向き(O)]が「縦」、『3.4.5 基本設定』の[方向(R)]が「順」となっていることを前提として説明します。

用紙幅方向の余白は以下の通りです。

左余白

以下の左余白が発生します。

出力用紙幅	左余白
58 mm	2 mm
80 mm	4 mm

右余白

以下の右余白が発生します。

右余白 = 出力用紙幅 - 用紙幅 - 左余白

上余白

上余白とは、用紙サイズ内で印刷データよりも上の印刷データがない部分と、ヘッドカッター間の紙送りの長さを含めた部分です。

ヘッドカッター間の紙送りの長さは『3.4.5 基本設定』の[余白(M)]、『3.4.6 用紙カット/マーク紙の設定』の[用紙カット(P)]と[カット位置までフィード(F)]の選択に依存します。

以下にその組合せを記載します。

用紙カット	カット位置までフィード	ヘッドカッター間の紙送り			
		最小余白	上余白最小	下余白最小	最大余白
フルカット	する	3 mm ^{※1}	3 mm ^{※1}	12 mm	12 mm
	しない	0 mm ^{※2}	0 mm ^{※3}	0 mm ^{※2}	0 mm ^{※3}
パーシャルカット	する	12 mm	12 mm	12 mm	12 mm
	しない	0 mm ^{※2}	0 mm ^{※3}	0 mm ^{※2}	0 mm ^{※3}
カットしない	-	0 mm	0 mm	0 mm	0 mm

※1: 諸条件により、若干の誤差が発生する場合があります。

※2: 印刷下部が切れる場合があります。

※3: 出力用紙の長さいっぽうに印刷する場合、印刷下部が切れる場合があります。

下余白

下余白とは、用紙サイズ内で印刷データよりも下の印刷データがない部分です。

ただし、『3.4.5 基本設定』の[余白(M)]が下余白を最小にする設定であった場合、印刷可能領域内に下余白が存在しない場合があります。

注意

- ◆ 『3.4.6 用紙カット/マーク紙の設定』の[用紙カット(P)]を「カットしない」以外かつ、[カット位置までフィード(F)]を「しない」に設定した場合、ヘッドとカッターの長さ分、印刷可能領域の内側にカットされます。
- ◆ プリンターの用紙幅設定とプリンタードライバーの用紙サイズ幅が合致しない場合、印刷内容が崩れる場合があります。
- ◆ 用紙サイズの内容に対し用紙高さについてはプリンターの機構上、若干の誤差が生じる場合があります。
- ◆ マーク紙を利用する場合、利用できる用紙高さは下記の通りです。
* 用紙高さ < [マーク間の距離] - 12 mm
- ◆ マーク紙を利用する場合、プリンター側の最大余白サイズは『6.3 余白』の上余白、下余白と異なります。
- ◆ ロゴの印刷、紙送り、カット位置までフィード、カスタムコマンドによる印刷は、用紙サイズ内では実行されませんので、指定した用紙サイズより長く印刷される場合があります。

参考

- ユーザーが新規に用紙を登録する方法については、『6.4 カスタム用紙の登録方法』を参照してください。

6.4 カスタム用紙の登録方法

以下にカスタム用紙の登録手順の一例を示します。

1. [プリント サーバーのプロパティ]画面の[用紙]タブを選択します。
2. [新しい用紙を作成する(C)]を「オン」にします。
3. [用紙名(N)]に用紙名を入力します。
4. [単位:]の「メートル法(M)」を選択します。
5. [用紙サイズ]の[幅(W)]にカスタム用紙の用紙幅を入力します。
6. [用紙サイズ]の[高さ(H)]にカスタム用紙の用紙高さを入力します。
7. [用紙の保存(S)]をクリックします。

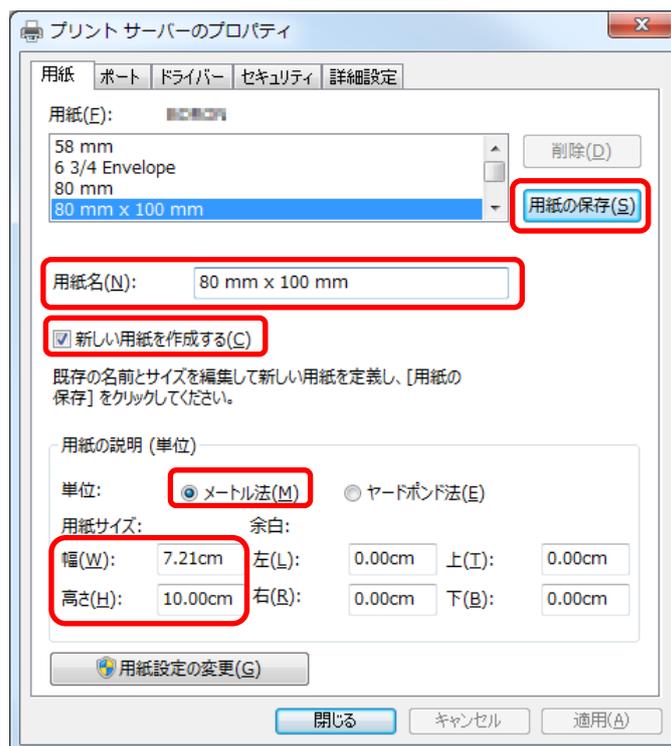


図 6-1 [プリント サーバーのプロパティ]画面

注意

- ◆ カスタム用紙の登録にはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ カスタム用紙は『6.2 用紙サイズ』の[用紙サイズ(範囲)]を考慮して登録してください。[用紙]上に表示されている用紙の中で『6.2 用紙サイズ』の[用紙サイズ(範囲)]に記載された内容に該当する用紙のみプリンタードライバーで利用できます。

7章 フォント

7.1 概要

本章ではフォント印刷機能について説明します。

プリンタードライバーで扱うことのできるフォントの種類には以下の種類があります。

- ・ TrueTypeフォント : Windowsに搭載されているフォントです。
- ・ デバイスフォント : プリンターに搭載されているフォントです。
- ・ バーコードフォント : プリンターでバーコードを印刷するための特殊フォントです。
- ・ 2次元バーコードフォント : プリンターで2次元バーコードを印刷するための特殊フォントです。
- ・ コントロールフォント : 予め登録されているプリンターコマンドを利用するための特殊フォントです。
- ・ コントロールAフォント : ユーザーが登録したプリンターコマンドを利用するための特殊フォントです。

参考

- TrueTypeフォント
TrueTypeフォントでは、斜体など文字修飾やフォントサイズを自由に変更できます。また、ほぼ画面イメージ通りの印刷が可能です。
TrueTypeフォントの印刷はイメージデータとして印刷されます。シリアル接続を使用している場合で印刷データが多い場合は、プリンターとの通信に時間がかかるため印刷が遅くなる場合があります。

注意

- ◆ IPDフォントを使用する場合、以下の設定にしてください。
 - ・『3.2.1 レイアウトの設定』の[印刷の向き(O)] :「縦」
 - ・『3.4.5 基本設定』の[方向(R)] :「順」
 - ・『3.4.5 基本設定』の[縮小(E)] :「縮小しない」
 - ・『3.6.4 ウォーターマークの設定』の[イメージ(I)] :「なし」
- ◆ 特殊フォントは、プレビューや編集画面ではイメージとして表示されません。
- ◆ 特殊フォントを使用すると、指定した用紙サイズより長く印刷されることがあります。
- ◆ 1行の中にデバイスフォントとバーコードフォント、2次元バーコードフォントは並べて印刷できません。
- ◆ 1行の中にTrueTypeフォントとIPDフォントは並べて印刷できません。
- ◆ 1行の中にイメージとIPDフォントは並べて印刷できません。

7.2 デバイスフォント

デバイスフォントとは、プリンターに内蔵されているフォントセットです。プリンターの印刷性能通りの印刷品質を得られます。シリアル接続を使用している場合、TrueType フォントよりも高速で印刷できます。

注意

- ◆ 文字に斜体を指定しても反映されません。
- ◆ 文字にアンダーラインを指定した場合、デバイスフォントのアンダーラインで印刷されるため、アンダーラインの位置や線種は固定です。

7.2.1 デバイスフォントの種類を選択

デバイスフォントの種類は以下の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明	
IPD Font A ^{※1}	8.5ポイント	欧文	24x12 標準フォント	
	17ポイント		24x12 縦倍角フォント	
IPD Font A Wide ^{※1}	8.5ポイント		24x12 横倍角フォント	
	17ポイント		24x12 4倍角フォント	
IPD Font B ^{※1}	5.5ポイント		16x8 標準フォント	
	11.5ポイント		16x8 縦倍角フォント	
IPD Font B Wide ^{※1}	5.5ポイント		16x8 横倍角フォント	
	11.5ポイント		16x8 4倍角フォント	
IPD Font A Japanese ^{※2}	8.5ポイント		日本語	24x12 標準フォント
	17ポイント			24x12 縦倍角フォント
IPD Font A Wide Japanese ^{※2}	8.5ポイント			24x12 横倍角フォント
	17ポイント			24x12 4倍角フォント
IPD Font B Japanese ^{※2}	5.5ポイント	16x8 標準フォント		
	11.5ポイント	16x8 縦倍角フォント		
IPD Font B Wide Japanese ^{※2}	5.5ポイント	16x8 横倍角フォント		
	11.5ポイント	16x8 4倍角フォント		

※1: 日本語環境では表示されません。

※2: 日本語環境以外では表示されません。

7.2.2 デバイスフォントの印刷

デバイスフォントはプログラミングにより印刷できます。

7.3 バーコードフォント

バーコードフォントとは、アプリケーション側でバーコードを生成しなくても、このフォントを指定することでバーコードを印刷できる特殊なフォントです。

バーコードフォントは、バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバでは 10 種類(IPD Barcode1 ~ 10)の設定を登録することができます。登録方法は『3.5.5 バーコードフォントの設定』を参照してください。

注意

- ◆ バーコードの回転を指定する場合は、印刷速度を低速側に設定してください。印刷速度が高速側だとバーコードの印刷品質が低下する場合があります。印刷速度の設定は『3.4.5 基本設定』を参照してください。
- ◆ バーコード設定やデータの指定により印字幅以上のバーコードになってしまう場合、正しく印刷されません。

7.3.1 バーコードフォントの種類を選択

バーコードのフォント名は以下の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Barcode1	8.5ポイント	欧文
IPD Barcode2		
IPD Barcode3		
IPD Barcode4		
IPD Barcode5		
IPD Barcode6		
IPD Barcode7		
IPD Barcode8		
IPD Barcode9		
IPD Barcode10		

7.3.2 バーコードフォントの印刷

バーコードフォントはプログラミングにより印刷できます。
バーコードフォントデータは、入力条件は以下の通りです。

種別	データ数	使用可能なデータ	備考
UPC-A	11 ~ 12文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	
UPC-E	11 ~ 12文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	
JAN13 (EAN)	12 ~ 13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	
JAN8 (EAN)	7 ~ 8文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	
Code39	1文字以上	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	スタートコード及びストップ コード('*')は自動で付加され ます。
		'A' ~ 'Z' (0x41 ~ 0x54)	
		' ' (0x20)	
		'\$' (0x24)	
		'%' (0x25)	
		'+' (0x2B)	
		'-' (0x2D)	
		'/' (0x2F)	
ITF	2文字以上 (ただし偶数個)	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	奇数個のデータを指定した 場合、最後のデータが切り 捨てられます。
CODABAR	1文字以上	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	スタートコード及びストップ コード('A' ~ 'D')の設定は 『3.5.5 バーコードフォントの 設定』を参照してください。
		'\$' (0x24)	
		'+' (0x2B)	
		'-' (0x2D)	
		'/' (0x2F)	
		'?' (0x3A)	
CODE128	2文字以上	(0x00 ~ 0x7F) ※1、※2、※3	
CODE93	1文字以上	(0x00 ~ 0x7F) ※2、※3	
JAN13 (アドオン 2)	12 ~ 13 + 2文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	
JAN13 (アドオン 5)	12 ~ 13 + 5文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	

※1: CODEの選択によって使用できるデータが異なります。

- ・CODE A: 0x00 ~ 0x5Fのアスキー文字
- ・CODE B: 0x20 ~ 0x7Fのアスキー文字
- ・CODE C: 00 ~ 99(0x00 ~ 0x63) の2桁の数字

下記の特特殊キャラクターによりCODE、FNC、SHIFTの選択を行います。

コード	CODE A	CODE B	CODE C
{S	SHIFT	SHIFT	SHIFT
{A	-	CODE A	CODE A
{B	CODE B	-	CODE B
{C	CODE C	CODE C	-
{1	FNC 1	FNC 1	FNC 1
{2	FNC 2	FNC 2	FNC 2
{3	FNC 3	FNC 3	FNC 3
{4	FNC 4	FNC 4	FNC 4
{}	'{	'{	-

※2: 0x00 ~ 0x1F、0x7Fを利用する場合、『3.5.5 バーコードフォントの設定』の[16進入力(E)]を有効にすることでコード入力が可能です。

※3: 0x20は、『3.5.5 バーコードフォントの設定』の[16進入力(E)]が「有効」の場合のみ使用できます。

7.4 2次元バーコードフォント

2次元バーコードフォントとは、アプリケーション側で2次元バーコードイメージを生成しなくても、このフォントを指定することで2次元バーコードを印刷できる特殊なフォントです。

2次元バーコードフォントは、2次元バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは5種類(IPD 2D-Barcode1 ~ 5)の設定を登録できます。登録方法は『3.5.6 2次元バーコードフォントの設定』を参照してください。

注意

- ◆ 2次元バーコードの回転を指定する場合は、印刷速度を低速側に設定してください。印刷速度が高速側だと2次元バーコードの印刷品質が低下する場合があります。印刷速度の設定は『3.4.5 基本設定』を参照してください。
- ◆ 2次元バーコード設定やデータの指定により印字幅以上の2次元バーコードになってしまう場合、正しく印刷されません。

7.4.1 2次元バーコードフォントの種類を選択

2次元バーコードのフォント名は以下の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD 2D-Barcode1	8.5ポイント	欧文/日本語 ^{※1}
IPD 2D-Barcode2		
IPD 2D-Barcode3		
IPD 2D-Barcode4		
IPD 2D-Barcode5		

※1: 日本語以外の環境では文字セット(フォントスクリプト)を「欧文」に選択してください。
日本語環境では文字セット(フォントスクリプト)を「日本語」に選択してください。

7.4.2 2次元バーコードフォントの印刷

2次元バーコードフォントはプログラミングにより印刷できます。
有効な入力データの詳細は、技術説明書を参照してください。

7.5 コントロールフォント

コントロールフォントとは、固定の文字に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。

7.5.1 コントロールフォントの種類を選択

コントロールフォントの種類は以下の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Control	8.5ポイント	欧文

7.5.2 コントロールフォントの利用

コントロールフォントはプログラミングにより使用できます。

コントロールフォントとして割り当てられた文字と動作は以下の通りです。

割当文字	動作	割当文字	動作
5	HT	u	文字の90度右回転の指定
6	LF	v	文字の90度右回転の解除
7	CR	w	位置揃え 左
a	ドロワ2オープン50 ms	x	位置揃え 中央
b	ドロワ2オープン100 ms	y	位置揃え 右
c	ドロワ2オープン150 ms	A	ドロワ1オープン50 ms
d	ドロワ2オープン200 ms	B	ドロワ1オープン100 ms
e	ドロワ2オープン250 ms	C	ドロワ1オープン150 ms
f	紙送り無し+フルカット	D	ドロワ1オープン200 ms
g	紙送り無し+パーシャルカット	E	ドロワ1オープン250 ms
h	NVイメージ00(30,30) 印刷	G	NVイメージ00(30,30) Normal印刷
i	NVイメージ01(30,31) 印刷	H	NVイメージ01(30,31) Normal印刷
j	NVイメージ02(30,32) 印刷	I	NVイメージ02(30,32) Normal印刷
k	NVイメージ03(30,33) 印刷	J	NVイメージ03(30,33) Normal印刷
l	NVイメージ04(30,34) 印刷	K	NVイメージ04(30,34) Normal印刷
m	倒立印字の指定	P	紙送り有り+パーシャルカット
n	倒立印字の解除	Q	紙送り有り+フルカット
o	白黒反転印字の指定	[NVイメージ00(30,30) 4倍印刷
p	白黒反転印字の解除]	NVイメージ01(30,31) 4倍印刷
q	アンダーラインの設定	^	NVイメージ02(30,32) 4倍印刷
r	アンダーラインの解除	_	NVイメージ03(30,33) 4倍印刷
s	強調印字の指定	`	NVイメージ04(30,34) 4倍印刷
t	強調印字の解除		

・ NVイメージの括弧内のキーコードは16進数です。

注意

- ◆ 90度回転時には、アンダーラインは付きません。

7.6 コントロールAフォント

コントロール A フォントとは、文字に事前に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。プリンターコマンドについては技術説明書を参照してください。

コントロール A フォントは、実行するプリンターコマンドを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは 0x20 ~ 0x7F までの文字に任意のプリンターコマンドを登録できます。登録方法は『3.5.7 コントロール A フォントの設定』を参照してください。

7.6.1 コントロールAフォントの種類を選択

コントロール A フォントの種類は以下の通りです。

フォント名	フォントサイズ	フォントスクリプト
IPD ControlA	8.5ポイント	欧文

7.6.2 コントロールAフォントの利用

コントロール A フォントはプログラミングにより使用できます。



セイコーインスツル株式会社

プリントシステム事業部

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507

電話番号：043-211-1212（直通） ファクシミリ：043-211-8037

ホームページ：<https://www.sii-ps.com>

大阪営業所

大阪府大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館 〒531-0072

電話番号：06-7711-0858（直通） ファクシミリ：06-7711-0856

◎本書の内容は、製品の改良に伴い、予告なしに変更することがあります。
